DARE

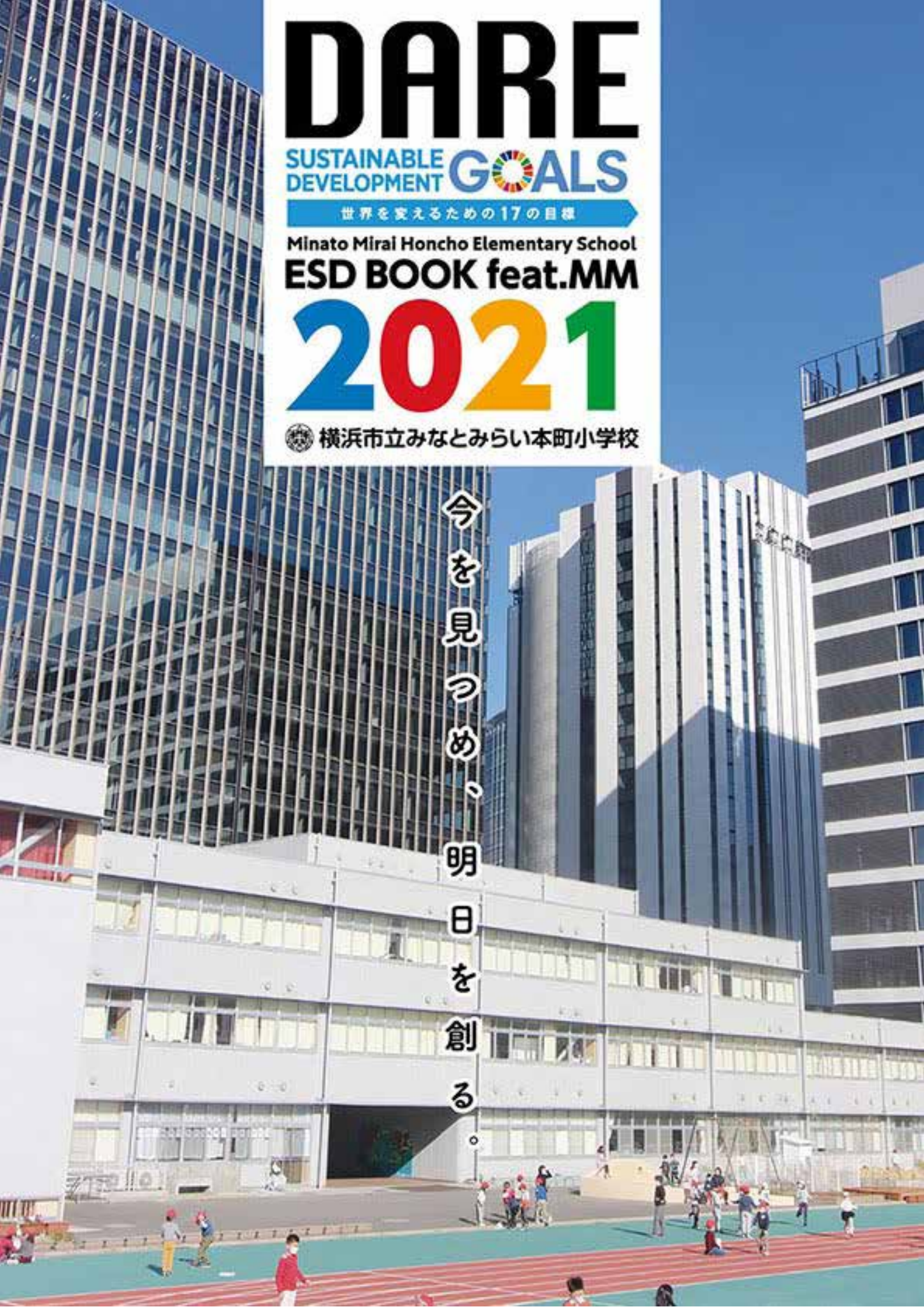
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

Minato Mirai Honcho Elementary School

ESD BOOK feat.MM 2021

横浜市立みなとみらい本町小学校



今を見つめ、明日を創る。

はじめに

地球規模でのコロナ禍に直面して２年。いまだ終息の時期、形さえ実感できないように思います。昨年度末は、これほど長引くとは考えていなかったように思います。変異していくコロナウイルスを目の当たりにして、勝ち負け、制圧するしないではなく、いかに持続可能な関係性をつくるのかが出口であることは明らかになっています。今回のコロナ禍は、このような世界共通の課題を、単に情報として知るだけではなく、一人ひとりが自分ごととして実感し、考え、行動する機会となりました。

本校では、開校時よりESDをスクールミッションとして位置づけ取り組んできています。ESDを単なる教育課題・領域として捉えるのではなく、子どもを主体のひとつとした社会創り、社会活動と位置づけ、社会の多様なステークホルダーと共に学び、活動をするなかで、子どもたちに（大人たちも）これからの社会を創り、生きていく力を育むことを目指しています。そのために、本校のESDの可視化、多様なステークホルダーとのゴール（ミッション）の共有、各ステークホルダーとしての役割の共通理解と協働の実践を１年１年積み重ねてきました。本年度も、東京都市大学佐藤真久先生、東洋大学／インド工科大学米原あき先生はじめ多くの皆さまからのご指導、価値づけに後押ししていただき進めることができました。心より感謝申し上げます。

2021年11月に出されたユネスコ報告書では、2050年に向けて持続可能な未来に向けた教育の在り方について投げかけられました。子どもたちが2030年をどう迎え、さらに2050年に向けて何を想定して動いていくのか。本校の取り組みがみんなで考える場、きっかけとなりましたらうれしく思います。引き続き、今後ともよろしくお願いいたします。

横浜市立みなとみらい本町小学校　校長

小正和彦

2021年11月、国連教育科学文化機関（ユネスコ）から一冊の重要な報告書が公刊されました。そのタイトルは『Reimagining our future together（私たちの未来を共に再構想する）』。コロナ禍や地球環境問題などの困難に直面して、私たちは私たちの未来に必要な教育の在り方を根本からとらえ直さなければならないという危機感が、報告書の土台となっています。この報告書の翻訳に関わりながら、みなとみらい本町小学校のことが何度も頭をよぎりました。

この報告書では、「rethink」や「reconsider」ではなく、「reimagine」という表現をタイトルに使っています。つまり、アタマを使って理性的に「再考する」だけではなく、感性や想像力をフル活用して「再構想する」ことが、未来を描く思考の様式として求められているということです。多くの知識をもって「考える」ことに加えて、今はまだここにないアイデアや概念の可能性を想像し、今はまだ会ったことのない遠くの国の人たちのことを想像し、今はまだ生じていない未来社会の課題を想像する。そういった、知的にも感性的にも逞しい思考の力でもって、「みな（皆）とみらい（未来）をつくっていこう」とこの報告書は呼びかけているのです。これはまさに、みなとみらい本町小学校の学校教育目標そのものです。

このESD BOOKには、一般的な意味での知力や学力に留まらない、想像力や構想力を涵養する多くの取り組みが報告されています。そして、みなとみらい本町小学校の強みは、「学んでいるのは子どもたちだけではない」という点にあります。日々、豊かな想像力をもってユニークな教育活動を考案する先生方ご自身が、誰よりも学習者になっている――学校にお邪魔するたびにそう感じます。ユネスコ報告書からの呼びかけを待たずして、すでに動き出しているこの学びのサークルをさらに拡張し、保護者の皆さんや地域の皆さんとも協働して、「学びのコミュニティ」が形成されていくことを応援しています！

東洋大学社会学部　教授／インド工科大学人文社会科学研究科　客員教授

米原あき

DARE SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標
Minato Mirai Honcho Elementary School
ESD BOOK feat.MM 2021
横浜市立みなとみらい本町小学校

CONTENTS

② はじめに

◉学校づくり

④ みなとみらい本町小学校とESD／SDGs
⑧ ESDロジックモデルについて
⑩ ESD／SDGsプログラムの評価
⑪ 横浜市立みなとみらい本町小学校　ESDロジックモデル2021

◉実践事例

⑫ 実践事例の見方
⑬ 国際教室
⑭ 1年生
⑳ 2年生
㉔ 3年生
㉘ 4年生
㉜ 5年生
㊱ 6年生
㊳ 学習室
㊵ 学校行事
㊷ 学校運営協議会／みらい共創ネットワーク！
㊸ 学校運営協議会委員の皆さまより
㊹ みなとみらい本町小学校ESDの歩み
㊺ 編集後記
㊻ みなとみらい本町小学校2021年度　職員
㊼ 2021年度　学校運営協議会委員

みなとみらい本町小学校とESD／SDGs

はじめに

本校は横浜市街地の中心に位置するみなとみらい地区にあり、周囲には企業や大型商業施設だけではなく、様々な公的機関の事務所も立地しています。2018年に開校してからこれまで、現在の課題へ向きあい、解決への学び・取り組みを通して、持続可能な社会づくりに取り組む教育活動を進めてきました。そうした教育活動を進めるには、世の中でも大きな話題になっている環境問題や地域の諸問題について、児童が主体となって解決に取り組むことが必要です。

そこで、みなとみらい本町小学校では、**「問題を解決するために必要な資質・能力を明らかにすることと児童が社会の問題の解決に参画することを柱」**として、東洋大学教授　米原あき先生にご助言をいただきながら研究を進めてきました。

ホールスクールマネジメント

1 ESD／SDGsを中核とした学校づくり

横浜市教育ビジョン2030には、『複雑で変化の激しい時代、解が一つではない課題にも柔軟に向きあい、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、他者と協働し、解決していくことが重要となります』とあります。そうした子を育てるためにはどのような学校であるべきかを、研修や研究会を重ねて、『「みな」と「みらい」を創る子』を育むことを学校教育目標に据えました。

この学校教育目標を達成していくためには学校だけではなく、保護者や地域、外部協力者と協働的に問題解決に取り組む必要があると考えました。

その仕組みの一つとして、学校運営協議会の委員に地域企業の方や専門家などを招いてコミュニティースクールの体制を整えました。また、持続可能な社会の担い手を育む教育活動（ESD）について理解を深め、各クラスの教育活動に取り入れてきました。

2 SDGs達成のために必要な資質・能力

ロジックモデルを作成したことで、どのようにしてESDを進めていくのかを教職員間で共有することができました。作成したロジックを活用するために、プログラム評価の手法を導入して、ロジックの項目がどのくらい達成できたかの指標にしました。児童にアンケートをとり、達成度を数値化し、それをもとに教職員が分析をして、次の教育活動に生かしています。

SDGs達成のためには、解決の方法が一つでない課題にも柔軟に向きあう必要があると考えています。そのため、世界的に注目されている環境問題や社会の問題につながるような活動を進めてきました。

iPadを用いた回答の様子

3 ESD／SDGsプログラムの実践

ロジックモデルを実際の教育活動で活用するために、具体的な活動のロジックを作成しました。このミニロジックモデルでは各教科や学級の取り組み、委員会活動など、学校全体で活用しています。

社会参画を目指した探究学習

本校は持続可能な社会の実現に向けたステップとしてSDGsを取り入れています。児童が、学級の活動はSDGsのどの項目に当たるのかを考えることで、身近なところには解決が困難な問題があることや、自分たちがその解決を担わなくてはいけないという必要感を養っていくことができました。

また、解決が困難な問題を解決するためには、地域や外部協力者との協働が必要だと考えています。このようにして活動を続けることで、児童の社会への参画意識も高くなってきました。

1 プラスチックの消費問題に参画した活動

【連携企業先】

アキュラホーム　ヨコハマSDGsデザインセンター

S／PARK（資生堂）

●活動のきっかけ

まちにごみがたくさん落ちていることを問題と考えていた児童は、自分たちのまちのごみ拾い活動を行いました。

拾ったごみにはプラスチック製品が多かったことから、身の回りにあるプラスチック製品の消費について調べ始めました。近くの河川に流れ着いたごみや公園に落ちているごみを調べると、使い捨てのプラスチック容器などが多くありました。日頃から給食でプラスチックのストローを使っていたこともあり、プラスチックに代わるものはないかと話しあいました。

●問題解決のための話しあい

専門家や多くの大人たちとアイデアを出しあい、プラスチックストローに代わるものを調べたり、実際に使ってみたりしました。プラスチックストローに代わるものとしては、ステンレス製のストローや竹でできたストロー、食べられるストローなどもありました。生産コストの面や環境負荷についても意見をもらいながら調査活動をしました。どれを使うことがプラスチックの代替につながるのか、消費者の立場になって考えたり、街頭でインタビュー活動をしたりしながら、よりよい解決方法を調べました。

●企業と協働して解決を目指すために

調べていくうちに、児童の力だけでは解決できない問題であることがわかってきました。インターネットなどで調べていると、竹田有里さんが発案したウッドストローをアキュラホームが制作していることがわかり、製作に関することについて教えてもらいました。

ウッドストローは、プラスチックの代替製品になるだけではないことがわかりました。間伐材を活用することで、山の環境を守れることも児童の考えに加わり、ウッドストローの価値を伝える活動へつながりました。

まずは、ウッドストローの製作に関わっているヨコハマSDGsデザインセンターの方に、プラスチック製品に代わるものを広める活動のことを説明しました。

次に、S／PARKの方に、ウッドストローを店頭に置いてもらい、使い捨てのプラスチック製品に代わるものがあることを伝える活動を協働的に行えるかを相談しました。

環境に配慮した店舗運営を行うことや、それを多くの人たちに知ってもらえるという目的を共有し、協働的に取り組みを進めました。

●持続可能な社会の形成に自分たちができること

街頭インタビューでわかったことの一つに、ウッドストローの認知度が低いことがありました。そのため、たくさんの人にウッドストローのよいところを伝える活動を考えました。安全性や衛生面、使い心地など、自分たちが調べたことや教えてもらったことをもとに、近隣の商業施設に依頼をして、ウッドストローを実際に作ってもらうワークショップを開催しました。また、S／PARKでは店頭に実物を展示、販売してもらうなど、協働的に問題解決に向けて取り組みました。

2 企業と児童が同じ目標にせまる活動

[連携企業先]

横浜高速鉄道株式会社（みなとみらい線）

●活動のきっかけ

みなとみらいのまちの魅力をもっと多くの人に知ってほしい。コロナ禍で元気がなくなっているまちに貢献したい。そんな思いから、児童がいつも使っている「みなとみらい線（横浜高速鉄道）」と協働して、まちの魅力を広めることにしました。

何ができるのかを考えた結果、まちの魅力をデザインした一日乗車券と、紹介マップをつくることになりました。

●協働的に問題解決について取り組む

「みなとみらいの魅力とは？」――校内でアンケートを取り、デザインに入れるべき名所を決め、また、限られたスペースに何をどのように入れるべきか何度も話しあい、デザインを決めていきました。マップを手に取った人に魅力を簡潔に伝えるにはどうしたらいいのかを話しあい、形式を決めていきました。一般販売できる乗車券となるよう、横浜高速鉄道の方と何度も打ちあわせ、アドバイスをいただきながら、制作を進めました。

●持続可能なまちの姿を考える

児童にとっての「持続可能なまち」とは、多くの人に愛されるまちでした。昨年度まで、目の前の海の魅力を広めるために、高島水際線公園マップや海水槽づくりなど海洋保全活動に取り組んできた経験から、「みんながまだ知らないまちの魅力をもっと広めるべき」との想いがありました。横浜高速鉄道の方々が同じ視点に立って協働していただけたことで、その想いをまちに広げることができました。

3 企業と協働的にSDGsを広める活動

[連携企業先]

株式会社ロイヤリティマーケティング

●活動のきっかけ

これまでの学習でSDGsに多く触れてきた児童は、身の回りにはどのくらいSDGsに取り組む企業があるのか、また、SDGsはどの程度浸透しているのかに関心をもちました。

調べた企業は、様々な取り組みを通してSDGs達成に向けて活動をしていることがわかりました。しかし、まだまだSDGsが知られていないこともわかり、それを広める活動を始めました。

●児童が参画する活動づくり

児童と同じように、SDGs達成のために、17の目標を達成するためのアプリ開発などを進めているロイヤリティマーケティングの方々と出会い、取り組みについて教えてもらいました。

SDGsを広めて、たくさんの人たちに関心をもってもらうことや解決のために取り組んでもらうという目的が同じところから、児童がアプリ開発に参画することになりました。

●協働的に問題解決について取り組む

児童がより多くの人に広めるためのアイデアを話しあったことをもとに、株式会社ロイヤリティマーケティングの方々とオンライン会議を開きました。何度か会議を重ねて、たくさんの人が楽しみながらSDGsのことを学べる、すごろくを提案しました。

●児童が持続可能な社会について発信する

児童と協働的に作ったすごろくは、ロイヤリティマーケティングのサイトからダウンロードが可能になり、全国へ発信することができました。

SNSを通して多くの人々に自分たちの思いを伝えることができました。

家族やお友達とあそぼう!

GreenPonta すごろく

みなとみらい本町小学校 5年2組コラボ ver.

横浜市立みなとみらい本町小学校　2020年度5年2組のみなさんとコラボしたGreenPontaすごろく!

ESDロジックモデルについて

はじめに

４年前に開校したみなとみらい本町小学校は、みなとみらい地区に位置する唯一の小学校です。みなとみらい地区には、企業や商業施設だけでなく、様々な公的機関の事務所も立地しています。そこで、本校では開校以来、豊かな地域資源と連携した「持続可能な社会の担い手の育成（ESD）」を目指し、小学校という教育機関でどのようなESDを実践できるのかを、東洋大学教授　米原あき先生にご助言いただきながら、研究を進めてきました。

ESD／SDGs概念の「開封（UNPACK）」

ESDとは何か。SDGs ってどんなことをすればいいの？　そんな悩みを抱えているのは学校だけでなく、地域の方々や保護者の方々など多くいると思います。ESDを理解するために、ロジックモデルを用いて自分たちの言葉でESDという概念を、まずは「UNPACK（UNESCO 2016）」することにしました。ESD概念を可視化すること。そして、それを論理的なつながりで整理すること。それが、ESDロジックモデルの出発点でした。

これまでのESDロジックモデル

◉ホールコミュニティ・アプローチで進めるESD

「持続可能な社会の担い手の育成（ESD）」は、企業やまちと協働し、子どもたちが自分から問題を解決したり、問題を共に考えていったりすることが大切です。しかし、「何をしたらよいのか」「どう動き出すべきなのか」「何を拠り所としたらよいのかわからない」と、活動にブレが生じてしまいます。そこで、私たちはロジックモデルを用いてESD概念を可視化し、多様な関係者（ステークホルダー）と共有していくことで、同じビジョンに向かって協働していくことを目指しました。

私たちが作成したESDロジックモデルは、学校教育目標を最上位目的（スーパーゴール）として、その目的を達成するためにどんなことができるか、何をするべきかをESDの視点で整理し、明確化したものです。学校教育目標達成のために何をしていくべきかを、ESD推進の手引きやカリマネ要綱、横浜教育ビジョンなどをもとに、どのような資質能力が必要とされ、またどのような活動をしていくとよいのか職員で考えました。このようにビジョンを明確化することで、自分たちが行っていることを可視化でき、自分たちの活動の評価の拠り所にもなりました。

また、子ども、教師だけでなく、地域の方や企業の方などのステークホルダーと、このビジョンを共有して協働していくことは、ESDを推進する上で大切です。そのため、ESDロジックモデルには、「子ども」「教職員」だけでなく、「地域の多様な人たち」「保護者」を活動主体にした項目も取り入れました。

◉ESDロジックモデルを軸とした授業実践

ESDロジックモデルをもとに、学校全体や学年・学級で活動プログラムを進めました。学級でどのような力を伸ばしていきたいか検討し、ESDロジックモデルの指針から重点的に身につけたい力を選び、実践しました。

ESDロジックモデルは授業のみならず、委員会活動や運動会など様々な学校教育場面でも活動の拠り所となってきました。それぞれの学級、学校行事場面でミニロジックを作成し、指標に近づいていけるような活動や手立てを考えていきました。

最上位目標 スーパーゴール	学校教育目標『みな』と『みらい』を創る子！ 「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見い出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」の５つの資質を育成する。
上位目標 最終アウトカム	社会（まち・ひと）とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる。 持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。
戦略目標 中間アウトカム	「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動から、社会（まち・ひと）の課題解決に向けて、様々な視点や立場に立ち、多様な他者の考えを尊重しながら、地域・保護者・企業にはたらきかけ、社会に変化を起こせる子（※１）が育っている。　※１／社会に変化＝変容

◉ESD／SDGsプログラムの評価

ESDロジックモデルは作って終わりではありません。ロジックモデルは一つの指標であり、常に形成評価を行いながら、変更、更新していくものです。

そこで、プログラムの達成度合いを測るために、ロジックモデルに紐づいた指標を作成し、活動主体にアンケートを実施しています。活動後のみに行う総括評価ではなく、形成評価の考えを取り入れ、プログラムがどの程度「活動主体の意識や行動の変化（変容）」や「関係者間の密接な連携」などを促しているかに関して検証を進めました。

データはできる限り数値化して、客観的な分析を進めました。事前事後、活動中の評価結果から、今までのプログラムを価値づけたり、今後（次年度）の活動を改善したりしていく大切な視点となっています。

2021年度（４年目）はESDロジックモデルの実践

◉日々の振り返りが次のESDロジックモデルに

ESDロジックモデルを見直す際に、一番に考える必要があるのは子どもの実態と本当にスーパーゴールに向かっているのかの見直しです。子どもたちがどのような学びを行ってきていて、どのような考え方をもつようになってきていて、どのようなESDの資質能力を育んできているのか。本当にこの活動をすることでスーパーゴールに結びつくのか。常に思考を働かせ、リフレクション（振り返り）していくことが大切です。「こんな子どもたちになってほしい」と職員全員でESDロジックモデルを見直し、よりよいESDロジックモデルにアップデートしました。

◉子どもたちのアンケートを生かして

子どもたちにもESDロジックモデルに沿ったアンケートを行うことで、子どもたちがどの程度成長しているか把握しています。また、子どもたちだけでなく、保護者、地域の方、企業、そして教職員からもアンケートを取ることで、よりよい教育活動を行っていけるよう努めています。

新ロジックモデルへの移行への経緯

そもそもロジックモデルって？
❶ESDの見える化　❷学校の形成評価とESD評価
と、なると……　自分たちが子どもたちを育てる時に同じビジョンでいなければならない。そのために日々の自分の教育観価値観を振り返るツールになるようにする。

と、なると……　やはり日々子どもたちと接している先生方の子どもをこんな子たちに育てたいという思いが大事になってきます。さらに、開校４年目を迎え、本校の子どもの実態も見えてきました。先生方の考えるところ、そして本校の実態から、ロジックに情緒的な部分が入ってくることが望ましいのではないかと考えました。

そこで！上の３つを踏まえ、直接アウトカムの作成を行いました。

ESD／SDGsプログラムの評価

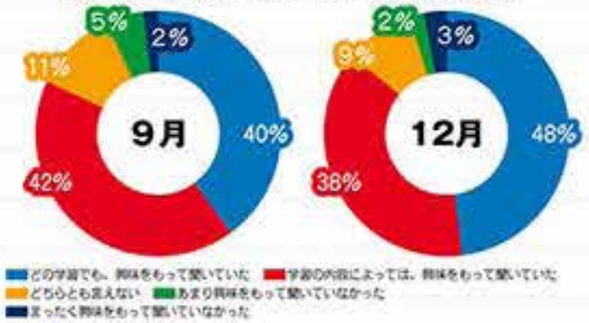
ESDには評価指標がありません。そのため、本校ではESD概念を「UNPACK」したロジックモデルを評価指標として取り入れています。活動をする前や活動中に実施する、形成評価の考え方に基づき、年に２回のアンケート調査を実施しました。アンケート結果のデータ分析は、顕著な特徴が表れた設問や教職員の予想と異なる結果が得られた設問を中心に検討しました。その際にはPDCA（⇒CDAP）を取り入れました。

❶CHECK……アンケート結果の分析をし、
❷DO……何をしたのかを振り返り、
❸ACTION……次の活動ではどのようにしていくのかを検討し、
❹PLAN……次年度に取り組む活動には、どのようなものが考えられるかを話しあいました。

【問❷】学校の学習で「やってみよう」「やりたい」が見つけられましたか。

【問❸】学校の学習で、自分がわかる方法を見つけたり、試したりしましたか。

【問❹】友だちや先生の話を聞くときに、「いいね」「うーん」「なるほど」「どういうことだろう」など興味をもって聞いていましたか。



【問❺】ひろい心で自分も相手も認められましたか。

問２では、12月のアンケートでは「見つけられた」と答える児童が増加していました。とくに、総合的な学習の時間や生活科では、児童の興味・関心を中心に学習を進めていたことが関連していると考えました。「見つけられなかった」と答えた児童が減少しています。

このことから、他教科でも児童が学ぶ主体となって学習を進めていく工夫をすることで、様々な場面を通して主体的に学ぶ姿勢を育つと考えました。

問４は、主に問題解決のための見通しや学習計画に関する設問です。２回のアンケート比較からは、設問２と同様の傾向が見られました。児童の主体性と問題解決の力には関連があると考えられます。

問５は「どの学習でも興味をもって聞いていた」の回答が増加しています。その理由に、「学習によっては興味をもって聞いていた」という児童が、どの教科でも興味をもって聞くようになったと考えられます。その反面、「あまり興味をもっていない」の回答にあまり変化はありませんでした。問４とくらべても同様の傾向が見られます。この結果から、受け身になっている児童が一定数いることがわかりました。全体の話しあいから、グループや少人数での話しあいの時間を計画することで、より主体的な活動につなげていきたいと考えました。

このように、２回行ったアンケート結果を比較すると、その成果と課題もわかるようになり、具体的な教育活動を考えることができました。全体的には９月にくらべて、12月の結果がよりよい数値に変化しています。

各活動でロジックモデルに関連するようにしていたため、ESDの意識が職員や児童にも浸透してきていることが考えられます。

横浜市立みなとみらい本町小学校　ESDロジックモデル2021

★印・中期学校経営方針重点取組分野

最上位目標　スーパーゴール
学校教育目標『「みな」と「みらい」を創る子』
「多様性を認められる」「多面的・多角的に物事を捉える」「問いを見い出して学び続ける」「まちに愛着をもつ」「豊かな心をもつ」の５つの資質を育成する。

上位目標　最終アウトカム
社会（まち・ひと）とつながり、多様な文化や価値観を取り入れながら広い視野で物事を捉え、現代社会における課題の解決に向けて行動できる、持続可能な社会形成を担うグローバルな人材が育成されている。

戦略目標　中間アウトカム
「みなとみらい」の豊かな資源を生かした教育活動から、社会（まち・ひと）の課題解決に向けて、様々な視点や立場に立ち、多様な他者の考えを共有しながら、地域・保護者・企業にはたらきかけ、社会に変化を起こせる子（＊１）が育っている。　＊１／社会に変化＝変容

活動主体　子どもたち

- **直接01　主体性**　子どもたちは、課題を見出し、解決に向けて、試行錯誤しながら活動を進めようとしている。　★１・生きて働く知
  - 直接0101　「やってみよう」「やりたい」が見つけられている。
  - 直接0102　自分が課題を解決するまでの手順を考えている。
  - 直接0103　自分に合った方法で、試行錯誤しながら解決している。
- **直接02　協働性**　子どもたちは、多様な他者とのコミュニケーションを図り、活動の価値に気づいている。　★２・豊かな心
  - 直接0201　人の話を聞きめりになって「いいね」「なるほど」「どういうことだろう」と反応している。
  - 直接0202　違う意見を取り入れながら考えをまとめたり、活動したりできている。
  - 直接0203　新しい見方・考え方を生み出す楽しさを見つけられている。
- **直接03　社会情動**　子どもたちは、ものごとを前向きに捉え、自分らしさを発揮できる。　★２・豊かな心
  - 直接0301　「こうしたい」「こうなりたい」といった、思いをもって取り組もうとする姿勢。
  - 直接0302　広い心で自分も相手も認めようとする態度。

活動主体　地域の多様な人々

- **直接04**　地域の多様な人々（地域企業・NPO法人・公的機関・ESD推進校など）は、本校の取組に関心をもち、協力・連携している。
  - 直接0401　出前授業や見学など、子どもたちが体験的に学ぶ機会を積極的に設けている。
  - 直接0402　イベントやお祭りなどで子どもたちと協働したり、発表の場を提供したりしている。
  - 直接0403　学校に、ESD・SDGsの取組に関する情報提供を行っている。
  - 直接0404　専門的な見地から、子どもたちの活動を高める助言を行っている。
  - 直接0405　現代社会が求めている実像を子どもたちに伝えている。
  - 直接0406　本校との協働により、職員・社員の満足度を高めている。

活動主体　保護者

- **直接05**　保護者は、本校の取り組むESDの価値を認識し、協働している。
  - 直接0501　学校だより・ホームページ・教育講演会などから、学校経営の方針や子どもの学びや活動を理解している。　★６・地域連携
  - 直接0502　子どもたちと共に活動できる機会（授業参観やみらい共創ネットワーク等）に参加し、学校の教育活動に協働している。　★６・地域連携
  - 直接0503　子どもたちへ課題解決に向けた助言をしたり、家庭でできることを実践したりしている。
  - 直接0504　子どもたちの活動が、社会生活の向上に役立っていることがわかる。
  - 直接0505　PTAや教育懇談会などの活動で、ESDの視点を取り入れる。

活動主体　教職員

- **直接06**　教職員は、学校全体でのESDへの取組を通して、子どもたちの自己有用感を高め、地域性・時代性と合致した学校づくりを進めている。
  - 直接0601　地域・保護者と協働しながら教育活動を進め、子どもたちにまちの一員、社会の一員という意識を高めている。　★４・社会参画
  - 直接0602　様々な人とのかかわり（友だち・異学年・地域人材等）を通して多様性を理解し、自他を大切にする心を育てる指導を行っている。　★２・豊かな心
  - 直接0603　学習形態や学習方法などを工夫したわかりやすい授業づくりを目指し、個に応じた適切な支援をしている。　★５・特別支援
  - 直接0604　体育などを活用した子どもの体力向上のための取組から、子どもたちが活動に楽しみをもてるようにしている。　★３・健やかな体
  - 直接0605　教職や学年・教科の枠を超え、職員一人ひとりがESD推進にできることに取り組んでいる。　★８・ESD
  - 直接0606　いじめの未然防止に努めるとともに、いじめと思われることがあったときには、すぐに対応して指導している。　★９・いじめ

実践事例（2021年度の学級の取り組み）

実践事例の見方

今年度の実践　生活科・総合的な学習の時間を中心に、学級ごとに、子どもたちの身近な問題や地域の課題を追究する課題に設定し、探究的に活動してきました。課題解決に向けて、本校の特色でもある豊かな外部資源や協力者と連携した実践を進めています。

また、校内だけでなく地域に出かけて、子どもたちが活動を発信する場を多く設定したことも特色です。

実践事例の見方　各学級の実践は、それぞれ見開き２ページにまとめています。

左のページ　ロジックモデルのどの項目を重点的に取り上げたか、特徴的なアンケート結果の分析、アンケートを実施した１月以降の子どもたちの様子や学びについて書いてあります。

【児童の様子】 2021年４月の実態から「どうような資質能力」を伸ばしたいかを考えました。

【アンケート結果❶と❷】 2021年９月と12月のアンケート結果のうち、顕著なものや特徴的なものを２つ取り出して、比較・分析してみました。グラフは、学級全体数を基とした百分率で表しています。

【その後の児童の様子】 2021年12月に実施したアンケート以降の子どもたちの活動や学びについて記載してあります。

右のページ　今年の実践を、活動写真を中心にまとめました。とくに、左ページに掲載したアンケート指標に関連のあるものを取り上げて掲載してあります。

【活動の様子】 内容項目や時系列にまとめて、２～３段にまとめました。主に、上段は豊かな体験に基づいた学びの様子に関して、中段や下段は自分たちの考えを伝えあう様子や実践している様子に関して、記載してあります。

【協働・連携先】 実践にあたり、主な協働・連携した外部機関・協力者の方々を記載しました。ご協力、ありがとうございました。

ご注意☆本校の子どもたちの活動に共感していただき、特別にご協力いただいた方もいます。誌面でお名前を見て、ご連絡差し上げるのはご遠慮ください。

国際教室

活動の経緯とねらい　国際都市よこはま、さらにみなとみらい地区は国際色豊かなまちである。そのなかの外国にかかわる子どもたちは将来、日本の社会で活躍していくことになるので、堂々とかかわりあいが築けるようにさせたい。そして、日本の児童の側もその活動が理解しあえる感覚を積み重ねていけるとよい。子どもたちが自分たちの母国やその文化を堂々と紹介できるように交流会を設けて、その活動に意義を感じ、自信をもって発信しようとする気持ちを育てたい。

テーマは、「学習室の子どもたちに自分の母国やその文化を伝えよう。そして、なかよくなろう」です。

紹介カードをつくって、日本とちがうことばや文化を紹介しました。

自分の国のことばや文化を選んで、自信をもって紹介しました。「私の国では太陽を『ソンツェ』と言い、太陽を黄色で描きます」「ぼくの国では、桃は『タオズ』と言います」といった紹介をしました。学習室の児童は楽しく聞きました。

その後、一人ひとりに名刺を配ってじゃんけんをして楽しくすごしました。正しい名前の発音できちんと堂々と自分の名前が言えました。最後に、みんなでたのしく「おさかなたいそう」を踊りました。元気いっぱい踊って仲よくなれました。みんなで感想を言いあって楽しく終わることができました。

今後、児童に期待すること　子どもたちは、発表後には、「つかれたけれどたのしかったよ」「知らない日本人の子どもと友だちになれてよかった」など、うれしそうにしていた。日本でも堂々と自分の国の文化を発表できたことで自信を深め、活動を発信することの喜びを感じることができた。また、学習室の児童からも「いろいろな国の人と友だちになれてよかった」と楽しい感想が聞けた。今後、さらに、学校のなかでのつながりをもちながら、地域で暮らす一人としての意識を高めていきたい。

1年1組

活動の経緯とねらい

小学校生活に慣れると共に、交友関係が広がり、自分のことだけでなく、友だちにも関心を広げていきました。朝の会で誕生日の子のために歌を歌ったり、誕生日会でバースデーカードを渡したりしました。おめでとうの気持ちを届けることで、相手だけでなく自分もハッピーなぽかぽかした気持ちになり、「誕生日だけでなくもっとメッセージを書きたいな」という思いがふくらみ、ぽかぽかした気持ちを増やしていく「ぽかぽか大作戦」がスタートしました。

アンケート結果について ①

「じぶんでかんがえた」の割合が増え、「どちらでもない」が減りました。４月から、自分で考えるための素地となる知識や技能を習得するとともに、一人ひとりが自分の立場を明確にして表現する機会や、役割を分担してどの子も活躍する機会を設けてきました。たとえば、「みな」と「みらい」を語る会では、自分で調べたことを保護者の前で発表する機会を設定しました。誰かに任せるのではなく、友だちのサポートをもらいながら何度も練習することで、当日は、自信をもって発表する姿が見られました。

どうしたら「わかる」か、どうしたら「できる」か、じぶんでかんがえましたか。

アンケート結果について ②

「みつけられた」という肯定的な回答の割合が増えました。ロイロノート・スクールを活用して、考えや感想を共有して比較したり、ペア学習で、友だちの意見を聞く体験を重ねたりしたことが要因と考えられます。朝の１分間ペアトークでは、「ぽかぽか大作戦」に関連して『友だちのよいところ』や『家族へのぽかぽかする取り組み』なども話題にし、友だちから話を聞く機会を積極的にとりました。その一方で、あまりみつけられなかったと回答する児童もいました。具体的に例を示したり、友だちから創作のヒントを得る姿を価値づけたりしましたが、引き続き、他者からアイデアなどを吸収していく姿勢を応援していきたいです。

ともだちやせんせいのいけんをきいて、あたらしいことがわかったり、じぶんのかつどうにとりいれたりしましたか。

今後、児童に期待すること

「ぽかぽか大作戦」を通して、自分のしたことに喜んでくれる人がいることに気づくことができました。同時に、自分に対して、周囲の人たちがぽかぽかすることをしていることに気づくこともできました。引き続きあたたかくなる作戦を実行して、４月に入学してくる新１年生に対しても、やさしく頼りになるお兄さん、お姉さんになってほしいと期待しています。

バースデーカード渡しがきっかけとなり、いつでもメッセージを届けられるように、友だちの頑張りやよさを伝えるための「ポカポカポスト」を作りました。メッセージをもらった子は、当番活動での頑張りやこつこつ漢字練習をするよさなど、こんなところも見ていてくれたとうれしい気持ちになっていました。また、メッセージを書いた子も、相手に何かをすることで、自分もうれしい気持ちになることを実感していました。

クラスの枠を越えて関心を学校全体に広げていきました。学校たんけんするなかで、様々な教室があることを知るとともに、様々な人が学校で働いていることに気づきました。直接、先生や調理員、事務職員に学校のぽかぽかしている点についてインタビューをして、自分たちのいいところや、「学校がこうなってほしい」という思いを聞くことができました。学校がよりよくなるために自分たちができることのヒントをもらいました。「みな」と「みらい」を語る会では、保護者に対して、クイズを交えながら調べたことを発表することができました。

また、学校だけでなく、お家でもぽかぽかすることを実行してみようというアイデアをもとに、「ニコニコぽかぽかしそうな作戦」をしました。家族にとって、スポーツや勉強など自分が頑張ったことだけでなく、料理や掃除をするなどの手伝い、さらには一緒にいることそのこと自体がニコニコぽかぽかすることということに気づくことができました。保護者から、作戦に対してあたたかいメッセージもらったことで、次の作戦を練る姿が見られました。

1年2組

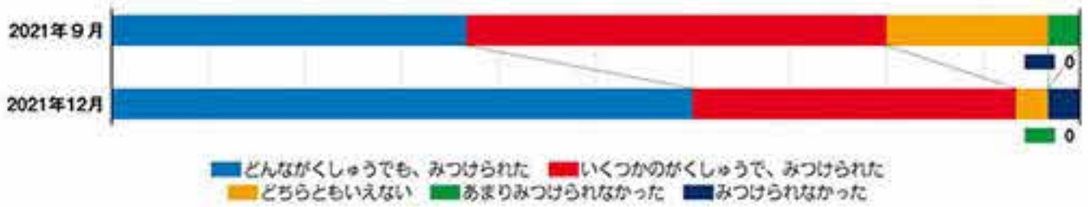
活動の経緯とねらい

スタートカリキュラムをはじめとしたゆるやかな入学を意識し、何ごとにもスモールステップで行い、できるようになる自信をつけさせたいと考えました。また、成長を自身で実感できる機会として「園児に伝える」「２年生に伝える」「保護者に伝える」ことでできるようになった成長を自身の感覚だけでなく、感じられるようにしたいと思いました。

アンケート結果について①

どんな活動でも見つけられたという児童が６割に達し、いくつかの学習も含めると９割を超える結果となりました。幼保小交流の活動を通じ、自分たちが小学生になってできるようになったことが増えたり、学校に詳しくなったりするなど自分自身の成長を感じられる機会があったからだと考えられます。やってみようという意欲だけではなく、「できた」「やりとげられた」という達成感が、意欲に実感をもたせる結果となったのだと思います。

がっこうで「やってみよう」「やりたい」がみつけられましたか。



アンケート結果について②

いくつかの学習で見つけられたと答えた児童が増え、肯定的な意見が９割を超える結果となりました。

はじめはできなかったことが何度も繰り返し行うことで、できるようになったという経験が自信につながったと考えられます。また、１年生の学習のなかでは、あまり様々なことを試したり確かめたりする活動が少ないのですが、生活科の「風とともだち」では、作ってみたい風のおもちゃをまずは自分で作りました。「みな」と「みらい」を語る会を通じて、ペア学年の２年生や保護者の方からのアドバイスをもらい、おもちゃが進化していくことを実感することができ、自己肯定感も高まってきたように思えます。

いろいろなやりかたをたしかめて、わかったことやできるようになったことがありましたか。

今後、児童に期待すること

スタートカリキュラムからはじまる１年生ではありますが、入学から「こんな自分になりたい」と大きな期待をもっている子どもが多いです。実際に学校たんけんや学習がはじまり、楽しんで活動をする姿が、初めの期待通りだったり、期待を超えるようなことがあったりすることで自信をもつことができたと考えられます。これからも、どの学習でも、自分の目標をもったり、できることを増やしたりする前向きな気持ちをもって、活動にも臨んでほしいと思います。

ようこそタイム（幼保小交流）では、コロナの影響により園児との直接交流はできませんでした。そこで、学校の様子や小学校生活のことを動画にして送ることにしました。幼稚園や保育園のときとはちがう小学校のことをわかりやすく説明しようと何度も練習したり、動画を見直して、撮り直したりしました。授業のことや給食のメニュー、給食当番など小学校生活のメインとなる活動を中心に説明しました。説明を考えていくなかで、いつも意識していることや、もうできるようになったことを言うなど、小学校でできるようになったことを説明することで自分たちが実感しました。

園庭のない保育園などが多いことから、１年生になって初めてやった花を育てる活動でした。お花で入学式でお迎えしたいと花を植えました。

まずは、自分の思いを形にしようと計画書を作り、自分の思い描くイメージを作っていきました。

次に、２年生におもちゃ作りのコツや工夫を教えてもらい、よりよくなるように工夫したおもちゃへと進化させました。

「みな」と「みらい」を語る会では、体育館の扇風機を使い、自分の作った風おもちゃを試してみました。試してみると、うまく回らない風車や思ったように膨らまないパラシュートなど自分の予想とちがうことが出てきました。保護者の方からもアドバイスをもらって自分の思いを形にすることができました。

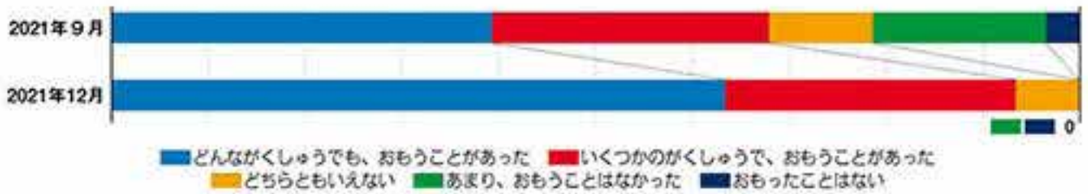
1年3組

活動の経緯とねらい　学校探検の活動を通して、子どもたちは担任以外の多くの教職員と出会いました。掃除をする技術員さん、学校じゅうを回っている児童支援の先生、理科の実験準備をしている先生など子どもたちにとっては新しい発見であるとともに、新しい疑問が生まれ、「もっと知りたい」「もっと調べてみたい」という主体的な姿が見られるようになりました。そして、取材を通して、学校には自分たちを支え、見守ってくれている人たちがたくさんいることに気づきはじめています。

アンケート結果について ①

学校探検で校内を回るときに出会ったり、触れあったりした教職員がいったい誰なのか、何をしている人なのか、なぜそこにいるのか興味関心をもつようになり、「知りたい」を解決する取材活動がはじまりました。取材してわかったことをクラスで伝えあうことで、「ふうん、そういうことだったのか」「だから～していたんだ」「そんな気持ちで仕事をしていたんだ」とわかった喜びを実感していました。そして、さらに「じゃあこれはどうして？」という新しい疑問が生まれ、「もっと調べたい」「もっと知りたい」につながったのではないかと思います。

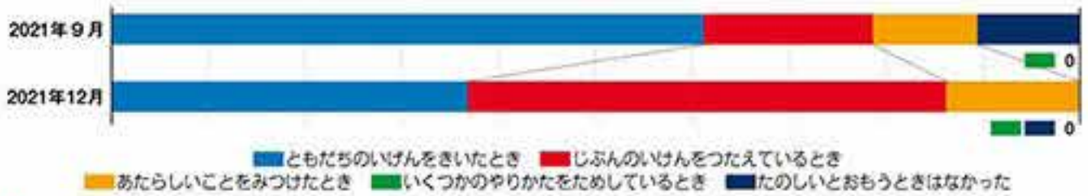
ともだちやせんせいのいけんをきいて、あたらしいことがわかったり、じぶんのかつどうにとりいれたりしましたか。



アンケート結果について ②　学校生活にも慣れ、ある程度の見通しと余裕がもてるようになってくると、反復する学習よりも新しい体験ができる活動、人とかかわる活動、人に伝える活動に楽しさを見いだすようになってきたのではないかと思います。「学校探検」では、iPadを使って、学校じゅうを自由に回り、担任以外の多くの先生に取材したり、自分がわかったことをみんなに伝えたりして、主体的に活動する様子が見られました。

また、相手にわかりやすく伝えるための技能も身につけ、12月の「語る会」では、２年生や保護者の方に、自分が取材してきたことを自信をもって伝えるなど、自己表現する楽しさを実感していました。

がくしゅうでたのしいとおもうときは、どのようなときですか。



今後、児童に期待すること　子どもたちは、学校で担任以外の教職員と交流することを通して、人と触れあったり、自分の「知りたい」を解決したりすることの楽しさを実感することができました。また、自分たちの安全や安心を見守ってくれている人たちがたくさんいることにも気づきはじめています。そこで、今後は、毎日登下校する通学路にも目を向け、自分たちの住むまちにも、自分たちを支えてくれる人たちがたくさんいることにも気づいてほしいと思います。そして、取材を進めながらその人たちの思いを感じとったり、自分たちがまちのためにできることを考えたりしてほしいと思います。

校長先生と子どもたち

初めて校長室に入り、校長先生にインタビュー。「先生の仕事は楽しい学校をつくること」という言葉を、早速クラスのみんなに知らせました。

葉山さんと子どもたち

技術員の葉山さんの「学校じゅうを掃除している」という言葉を聞き、「葉山さんがいるから、学校はピカピカなんだ」と実感していました。

赤津先生

「児童支援専任の赤津先生は、学校じゅうをいつも回っているけれど、子どもたちの安全と安心を見守ってくれていたんだ」ということがわかり、納得していました。

PTA会長の山本さん

PTA会長の山本さんも、毎日通学路に立って自分たちの安全を見守ってくれていることに気づきました。「あいさつしてくれるとうれしい」という言葉もみんなに伝えていました。

４人の子どもたちの発表

子どもたちと保護者

「みな」と「みらい」を語る会では、自分たちが調べたことを２年生や保護者の方にクイズで伝えました。「学校だけでなく、みんなの通学路にもみんなの安全を守ってくれる人たちがたくさんいます。たとえば工事の人、お母さんたちも。ぜひ挨拶してくださいね」などという言葉を保護者の方からいただきました。

2年1組

活動の経緯とねらい

生活科の授業で野菜を育てたことや、まちたんけんに出かけたことで、児童が植物やまちに対して愛着をもつようになってきました。そして自分たちが調べたことを多くの方に伝えたいと考えるようになってきました。自分たちが住むみなとみらいというまちが大好きになり、まちのよさをみんなに伝えたいという思いをもってほしいと思いました。

アンケート結果について①

「どんな学習でも見つけられた」という児童が増加しました。２年生になって、ペア学習や実践的な学習をすることができたことで学習の幅が広がり、「やってみたい」「こんなことをしたらどうかな」という子どもの姿が見られました。とくに、「みんなの庭」との交流や、高島中央公園愛護会の松本さんにインタビューする経験を通して、みなとみらいというまちが大好きでもっと広めたい、ボランティアをしたいという気持ちが大きくなり、このような結果につながったとみられます。

がっこうで「やってみよう」「やりたい」がみつけられましたか。

アンケート結果について②

「どんなときでもこうしたい、こうなりたいと思って取り組んだ」が減少し、「どちらともいえない」や「たまにこうしたい、こうなりたいと思って取り組んだことがある」が増加しました。この背景として、松本さんのイベント企画や運営などについて知ったことで、実現するまでの困難さや苦労を聞き、「こうしたい」と思うと同時に「できるのだろうか」という気持ちが芽生えてきたのではないかと考えます。何も考えずに「こうしたい」と思うだけでなく、そのためにどうしたらよいかを考える児童が増加しました。

「こうしたい」「こうなりたい」とおもって、とりくみましたか。

今後、児童に期待すること

「みんなの庭」や高島中央公園愛護会の松本さんとかかわって、みなとみらいというまちのよさに気づきました。みなとみらいは都市としての役割をもつなかで、緑を増やしてまちをきれいにする活動、まちの住民同士がつながれる活動をしている方々がいることを知りました。その方々とかかわることで、人とかかわること、みなとみらいをよりよくすること、そのよさを知ってもらうことを目指す児童の姿が見られました。今後、自分たちで企画したボランティア活動を成功させ、よりみなとみらいを好きになり、３年生以降の総合の活動につなげていってほしいと思います。

畝を案内してもらっている様子

柑橘類を発見！

葉っぱを触って感触を確かめる

野菜も虫も共生できる野菜の育て方について、「みんなの庭」の方から教えてもらいました。実際に柑橘類の葉を触ったり、においを嗅いだりして種のちがいを肌で感じることができました。

Park Dayに参加

お花の植え替え

同じ柑橘類、葉のちがいに感動

高島中央公園愛護会の松本さんからまちのことについて話を聞いて、イベントに参加しました。

「みんなの庭」と松本さんから教わったことから、きれいなみなとみらいのまちをもっと知ってほしい、そんな活動がしたいという気持ちが大きくなりました。３月にはごみ拾いイベントを予定しています。

【協働・連携先】高島中央公園愛護会／高島水際線公園愛護会／グリーンワイズ「みんなの庭」

2年2組

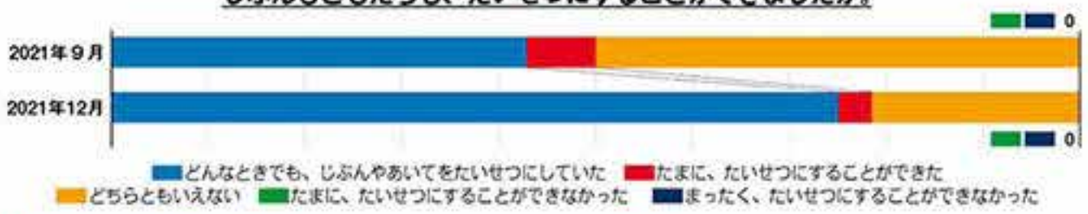
活動の経緯とねらい　子どもたちがよく遊んでいる高島中央公園から調査をはじめ、今まで気づかなかったルールや花壇を整備している人の存在に気づきました。「自分たちの公園だから、自分たちで守りたい」という愛護会の方の思いに触れ、ゴミ拾いやイベントに参加しました。様々な人が公園を通じてつながっていることもわかり、もっとまちのいろいろな場所も知りたいと、公園やマンションをくらべるうちに、それぞれの場所に特色があることがわかってきました。

アンケート結果について①　結果では12月のほうが、どの学習でもいろいろなやり方を試したと答える児童が増えました。これは生活科に限らず、国語や算数、音楽、体育などの教科・活動で自分の考えをもち、それを実現するために試行錯誤する学習の仕方が増えたからだと考えられます。今回、公園くらべやマンションくらべを発表するにあたり、児童の意向でグループを作りました。同じマンションAを紹介したい者同士でも、クイズや劇、絵地図など、やりたい方法もちがいました。お互いが試行錯誤して、お互いのよさを認めあい、各グループが満足のいく発表をつくりあげました。こうした経験を積むことで、受け身の学習から脱し、自分で目標を定めて粘り強く探求するとともに、できたときの達成感や充実感も感じてほしいと考えています。

いろいろなやりかたをためして、わかったことやできるようになったことが、ありましたか。

アンケート結果について②　生活科の学習では、自分がやりたいことを大事にするとともに、他の人のアイデアやアドバイスをみんなで共有し、よりよい活動にしていくというやり方をくり返してきました。公園たんけんでは、自分の見つけた人やルール、気づいたことやわかったことを、友だちとたくさん伝えあいました。自分の発見したことを聞いてもらえるうれしさとともに、友だちの発見したことに「へえ、知らなかった」「それ、わたしも見たことある」などと反応して会話をつないでいく楽しさも感じられるようになりました。

じぶんもともだちも、たいせつにすることができましたか。



今後、児童に期待すること　今回の学習で子どもたちから「〇〇には行ったことがなかった」「A公園とB公園でこんなにちがうと思わなかった」などの声が多く聞かれました。本校の学区は大都市にあり、子どもたちが自由に入ったり行ったりした場所が少ないことを感じました。学校でいろいろな場所の情報や、自分たちのまちへの思いも共有できたことは、とても有意義だったと感じています。このまちを大事にしていきたいという思いをもつようになってきた子どもたちが今後、誰にでもやさしい場所とはどんなところなのか、それをつくるにはどうしたらよいのかを考え、力を合わせてそれを実現していくことを期待しています。

公園で遊ぶと楽しいよ

いつも遊んでいる高島中央公園はいろいろな人が利用していました

公園の遊具にはたくさんの決まりがあることに気がつきました

公園を守っている人の存在を知りました

春探しに出かけた水際線公園、この後、半年まちたんけんができなくなってしまいました。10月に公園たんけんを再開。遊具の約束を見つけたり、植えてある花や草について愛護会の方にお話を聞いたりできました。

公園のイベントで花植えに協力しました

別の公園には高島中央公園とはちがう特色がありました

愛護会の松本さんと仲よくなり、花壇の花植えイベントやゴミ拾いに参加しました。小さい子やお年寄り、いつもゴミ拾いに参加している上級生などがいて、高島中央公園を愛用している人の幅の広さに気づきました。ほかの公園もそうなのかな？　と疑問をもった子どもたちは、いろいろな公園を調査しに出かけることにしました。

自分たちが暮らすマンションをくらべたら、それぞれ特色があり、住っている人がいました

わかったことを絵や表にして説明しました

自分たちの住むマンションもくらべてみたい、とマンション調査にも出かけました。商業施設があるマンション、緑地が多いマンションなど特色があり、お互いの住む場所のよさを知ることができました。「みなとみらいを語るWEEK」では、公園くらべとマンションくらべを模造紙などにまとめて、発表しました。さらに、これから「みんなの庭」にも訪れ、企業の目指すまちづくりの考え方にも触れていきます。

【協働・連携先】高島中央公園愛護会／マークイズみなとみらい／グリーンワイズ「みんなの庭」

3年1組

活動の経緯とねらい　これまでに、みなとみらいのまちをもっといいところにしたいという思いで、調査や活動をしたりしました。3年生になり、まちの人たちにインタビューをしたところ、「自然が感じられるようなまちになってほしい」という思いが多くありました。自分たちの考える「明るい気持ちになれるまち」「思いやりがいっぱいのまち」にも関連するところがありました。みなとみらいには「みんなの庭」という来園した人の庭になってほしいという思いの場所があります。そこで、「みんなの庭」にたくさんの人に来てもらい、「特別な体験」ができるようにイベントを開くことを通して、住み続けられるまちについて探究しています。

アンケート結果について①　12月では「学習の内容によっては、考えた」という回答が増加。その反面、「どの学習でも、考えた」という回答は減少していました。探究活動を行う上で、解決までの見通しをもつことは大切なことだと考えます。そこで、問題を解決するまでの見通しをもてるように、まちの人たちへの調査活動をしました。具体的な解決案や体験をともなった活動をもとに話しあうときには、多くの児童が計画的に活動を進められていました。対して、解決が困難なことや経験をもとに話しあう場面では、何をどう解決するのがよいか考えることが難しいようでした。このことから、体験を重ねて活動の見通しがもてるようにする必要があります。

自分で、学習の課題を解決するまでの計画を考えましたか。

アンケート結果について②　12月では「どの学習でも、見つける楽しさがあった」と回答した児童が増加。みなとみらいのまちという身近なことを題材として探究した結果、問題の解決にたどり着くたびに、自分自身の見方や考え方が広がっていることを実感していると考えられます。活動をして終わりではなく、活動の振り返りや次の活動にどうつながっていくのかと考えられ、主体的に取り組む姿勢が育っています。また、「あまり楽しさが見つけられなかった」と回答している児童がいなくなっていることからも、より主体的な活動につながっていることが考えられます。今後は、他教科とも関連して、学ぶ楽しさを見つけられるようにしていきたいです。

友だちや先生と、新しい見方や考え方を見つけることは楽しいと感じましたか。

今後、児童に期待すること　児童が一番本気になれることが、身近なことがらに関することだと思います。とくに企業や商業施設が隣接したみなとみらいに関しては、地域の力を高めていくことが、将来的に持続可能な社会の形成につながっていくと考えています。まちの人たちが何を思っているのか、まちで働く人たちの思いはどこにあるのか、協働的に問題解決にあたることで、児童自身がまちを形成する主体となって活動することが大切です。みんなの庭の人たちやディスプレイミュージアム、マークイズの方々と一緒に活動することで、社会への参画意識を養っていってほしいと思っています。

コンセプトを教えてもらっているところ

まちの人にみなとみらいについてインタビュー

みんなの庭の自然らしさ調査

まちの人に、みなとみらいの将来についてインタビューをしました。自然がいっぱいのまちを望む声が多いことから「みんなの庭」のコンセプトや作りについて調査しました。そこから、まちに来た人たちにも自然を感じてもらい、思いやりの気持ちや明るい気持ちをもってもらいたいと考えました。

花束のアレンジメント

鹿島建設

鹿島建設の方から、花壇を作るために球根をいただきました。

ディスプレイミュージアムでアレンジメント

みんなの庭の方と話しあいました

ディスプレイミュージアムでは、花の色づかいや、フラワーアレンジメントについて調べたり、教えてもらったりしました。見る人が思いやりの気持ちをもてるようなディスプレイ制作に活用しました。

「みんなの庭」をイメージして、正門前の花壇で、自然か感じられるレイアウトについて話しあいました。みんなの庭の方も一緒に考えを出しあい、思いを込めた花壇になりました。

【協働・連携先】マークイズみなとみらい／ディスプレイミュージアム／グリーンワイズ「みんなの庭」

3年2組

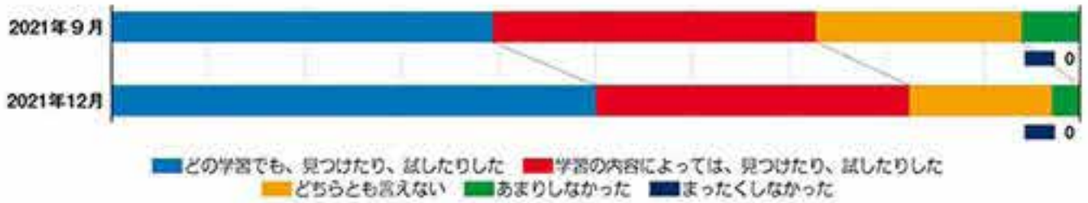
活動の経緯とねらい

日本釣振興会の吉野さんから海のごみのことや生き物のこと、高島水彩線公園の人工干潟について教えていただき、生き物調査をすることになりました。生き物を傷つけず、潮位を気にせず、いつでも観察できるようにするには、罠を仕掛けて捕まえるとよいのでは、という発想から、罠を手作りしながら生き物調査をしています。自然に親しむことを通して、自分たちの行動が自然に影響を与えることを知り、身近な環境を守ろうとする姿を育てたいです。

アンケート結果について①

学習のなかで、自分の考えを書かせたり言わせたりする活動を大切にしてきました。グループで活動する機会が少なかったこともあり、自分の考え方を友だちが見たり、聞いたりしたときにわかりやすいかという相手意識をもちながら取り組みました。そのなかでも、３年生から学習がはじまった理科や総合的な学習の時間では、自分の考えを明確にし、その考え方がよりよいのか試行錯誤する場面が多くありました。そうした日々の学習経験から、「どの学習でもわかる方法を見つけたり試したりした」と答える児童が増えたのではないかと考えました。

学校の学習で、自分がわかる方法を見つけたり、試したりしましたか。



アンケート結果について②

人それぞれ感じ方や考え方はちがうということを前提にして学習に取り組みました。そのなかでも、総あ的な学習の時間の影響は大きいと感じています。総合的な学習の時間では、生き物を捕まえるための罠を手作りしています。それがうまくいかず、友だちや大人から助言をもらって、たくさんの考え方のなかから、罠を改善していく必要がありました。そうした失敗と改善を繰り返すなかで、どの学習でも自分とはちがう意見を取り入れられるようになってきたのではないかと思います。

自分とはちがう意見を取り入れて、活動を考えたり、考えをまとめたりしましたか。

今後、児童に期待すること

総合的な学習の時間では、手作りの罠を使った生き物観察を引き続き行います。うまく魚を捕まえたグループにアドバイスをもらおうとする姿も見られることから、多様な考え方を受け入れようとする土台ができているように感じます。今後は、グループ活動や集団での活動を通して、協働的な活動をより取り入れ、自分自身の考え方を伝えあうなかで、自信をもって活動できるようにしていきたいです。また、友だちの意見を聞いて考えが広がったことを認めあえる機会を多くもち、より多様な価値観を受け入れられるようにしていきたいです。

高島水彩線公園人工干潟で生き物探し

罠に生き物がかかっているか確認

日本釣振興会の吉野さんのお話

干潮時間に合わせて生き物調査をしました。生き物よりごみの方が多く見つかりました。そのため、吉野さんに教えていただいたことをもとに、生き物が過ごしやすい環境を考えながら、調査を続けることにしました。生き物を傷つけず、いつでも観察できるようにという考えから罠を作って設置しましたが、１匹も生き物が捕まらず、１回目は失敗に終わりました。

「みな」と「みらい」を語る会で発表

２回目の罠を設置

手作りした罠を確認しながら設置

２回目の罠設置に向けて、「みな」と「みらい」を語る会で大人の方からも改善策を教えていただきました。その改善点をもとに、引き上げるときの傾きや重さ、餌や罠を設置する場所など、何度も話しあって２回目を実施しました。２回目の罠を引き上げると、ハゼを捕まえることに成功しました。しかし、そのハゼを死なせてしまい、生き物を大切にすることの難しさも実感しました。今後は、罠作りを続けながら、カニ観察迷路を葦（あし）の中に作る予定です。地域の人たちにも親しんでもらえる人工干潟を目指して取り組んでいきます。

【協働・連携先】日本釣振興会／ハマの海を想う会　吉野生也様

4年1組

活動の経緯とねらい

３年生の活動では、両クラスとも生き物に関する活動を中心に行ってきました。水際線公園で生き物を探して採取・観察・飼育したり、絶滅危惧種「ミナミメダカ」を譲り受け、ビオトープで繁殖したりしました。そのなかで子どもたちは、生き物の命の尊さや、命を育む自然の大切さに触れることができました。４月に子どもたちがアイデアを出しあい、活動のテーマについて思いを伝えあうと、そのなかで去年の活動の思い出がたくさん出てきました。クラスで話しあいを重ねた結果、今年の総合では、昨年度までの経験を土台にして、自分たちの生活に身近な環境問題に目を向けて活動することになりました。

アンケート結果について①　９月のアンケート結果と比較すると、「いつでも～取り組んだ」「活動によっては～取り組んだ」の積極的な回答の２項目が増加しています。９月に臨時休校や分散登校の期間があり、子どもたちの活動が一時停滞しました。しかし、10月から子どもたちの「やりたいこと」を大切にして、活動についての話しあいや「まち探検」などの体験活動を重ねてきたことが結果に表れたのではないかと考えられます。９月とそれ以降の環境のちがいを考えると、子どもたちの学習に対する能動的・積極的な思いは、分散登校期間明けの教師や友だちなどの「人とのかかわりあい」のなかで育まれていると言えそうです。

自分が「こうしたい」「こうなりたい」という思いをもって取り組みましたか。

アンケート結果について②　結果①と同様に、「どの学習でも、興味をもって聞いていた」「学習の内容によっては、興味をもって聞いていた」の積極的な回答２項目が増加しています。設問にある「反応」や「つぶやき」が学校での活動全体を通して増えたと考えると、学習内容に対する理解の深まりというよりは、年度の後期になり学級内の人間関係が成熟して、互いを認めあえる関係が醸成されてきた結果と捉えることもできます。各教科、行事、人権週間などの取り組みを通して、子どもたちは自分を認め、相手を認める力を獲得し、「学びあい」の素養を身につけてきていると考えられます。

友だちや先生の話を聞くときに「いいね」「うーん」「なるほど」など興味をもって聞いていましたか。

今後、児童に期待すること

目の前にある「当たり前」や「素朴な疑問」に改めて目を向けることで、新しい視点をち、物ごとを多角的に捉える力を培うことができると考えています。子どもたちには、集団のなかで自分の考えをもち、表現したり、試したり、改善したりする活動を繰り返し行い、他者との見方・考え方のちがいとその大切さに気づいていってほしいと思います。そのために教師は、大人都合の交流や活動を設定するのではなく、子どもたちが自由な発想をもち、それらを表出できる場づくりに注力し、子どもの「思い」や「願い」から活動をスタートさせる必要があるのではないかと考えています。

自分たちが住むみなとみらいのまちに目を向けて、ゴミがあるか調査しました。一見キレイに見える通りでも、植え込みにはポイ捨てされたタバコや空き缶などがあり、学校で分別した際にそのゴミの多さに驚きました。

環境を守るエコ活動の一つとして、自分たちで調べたエコバッグ作りにチャレンジしました。特別な道具は必要とせず、はさみ一つで作ることができました。また、「みな」と「みらい」を語る会では、これまでの活動や調べてきたことについて、保護者の方へ発表して、様々なアドバイスをもらうことができました。

長崎県対馬市にある厳原北小学校とオンラインでの交流をしました。横浜から遠く離れた学校でも、自分たちと同じように身近にある問題に目を向けて活動している子どもたちがいることを知り、お互いのまちや学校を紹介したり、これまで取り組んできた活動を伝えあったりしました。

【協働・連携先】横浜高速鉄道株式会社／横浜市西区役所／長崎県対馬市立厳原北小学校／コミュニカーレ株式会社／NPO法人スローレーベル

4年2組

活動の経緯とねらい

長引くコロナ禍での学校生活を少しでも楽しくできないかと「コロナ対策を楽しく！」という課題に１年間取り組むことにしました。ついつい面倒に思ってしまう感染症対策も、自分たちのアイデアで楽しくすることができるのではないかと考え、オリジナルの手洗いソングを作成しました。その後、資生堂の研究員さんに「しっかり泡」の泡立て方を教えていただき、よりよい手洗いソングに改良しました。

様々な立場の人の意見を取り入れながら活動していく力を育てていきたいです。

アンケート結果について ①

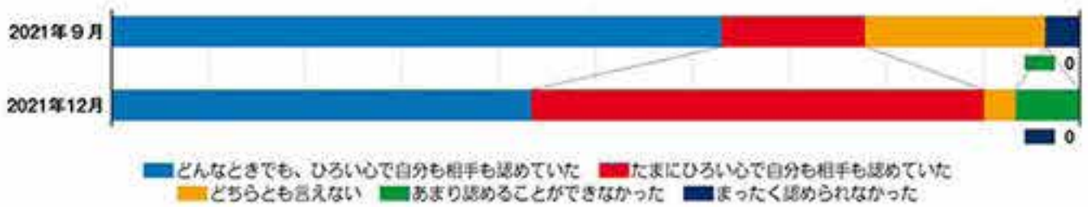
９月のアンケート結果と比較すると、「どの学習でも、見つけられた」「学習の内容によっては、見つけられた」の積極的な回答の２項目が増加しました。これは、どの活動でも「何のために」「誰のために」という部分を子どもたちと共有し、子どもの思いに最大限寄り添うことを大切にしてきた結果だと考えます。４月に話しあいをし、「誰のために」を「学校や地域のみんな」とし、「何のために」を「手洗いをして笑顔にしたい」に決定しました。このように、目的を明確にした結果、やりたいことを具体的に考えることができたのではないかと考えます。

学校の学習で「やってみよう」「やりたい」が見つけられましたか。

アンケート結果について ②

９月のアンケート結果と比較すると、「どんなときも認めることができた」という回答は減少した一方、「たまに認めることができた」という回答は増加しました。様々な活動のなかで「自分の考え」をもつことを大切にしてきました。自分の考えをもつ子どもが増えることで、安心して意見を交流できる環境になってきたのだと思います。

ひろい心で自分も相手も認められましたか。



今後、児童に期待すること

自分たちで考えたオリジナルの手の洗い方が本当にこれでいいのか、保護者の方、３年生、資生堂の研究員にそれぞれ披露し、意見をもらいました。様々な立場の人たちからそれぞれ新しい視点での意見をいただき、自分たちのオリジナルソングをよりよいものにすることができました。今後は、でき上がった手洗いソングを学校だけではなくまち全体へ広げていきたいと思います。そのなかで、相手の立場に立って考えることや、自分たちの伝えたい思いをわかりやすく話す力などを、さらに身につけていってほしいです。

「自分たちでマスク作りができないか」と家にあまっている布をもち寄って、自分たちで調べた方法でマスク作りに取り組みました。実際にやってみたからこそ、メリット、デメリットが見えてきました。

学校に隣接する資生堂で洗浄開発研究をしている研究員に「きめの細かいしっかり泡の作り方」を学びました。手洗いチェッカーで確認すると、今までの洗い方より、もっときれいになっていました。その泡立て方を取り入れ、オリジナル手洗いソングが完成しました。

【協働・連携先】株式会社資生堂／長崎県対馬市立厳原北小学校／コミュニカーレ株式会社／NPO法人スローレーベル／はまっ子未来カンパニー

5年1組

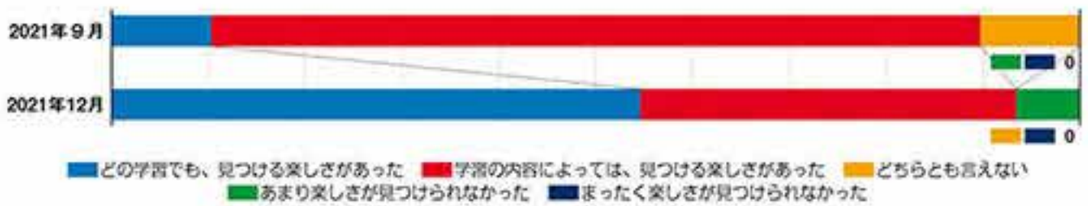
活動の経緯とねらい

みなとみらいのまちの問題点をクラスで話しあったところ、「海が汚れている」「海のゴミが多い」と海にかかわる話題がたくさんあがりました。そこで、高島水際線公園を活動の中心拠点とし、海の生き物やゴミの量などを調査していくことにしました。みなとみらいの地域には自然があり、その数少ない自然とかかわれる場所を大切にしつつ、生き物にとっても住みやすいまちであるために、自分たちができることを考えて行動してほしいです。

アンケート結果について ①

９月のアンケートと比較すると、「どの学習でも見つける楽しさがあった」と感じた人の割合がかなり増えたことがわかります。総合的な学習の時間では活動から感じたことを伝えあい、「そんな方法もあるのか」「ぼく・わたしもやってみようかな」と自分の見方だけでなく、新しい視点も大事にしようとする子が多かったように感じます。実践することにより、新たな気づきが生まれたり、価値観を見出したりすることに意味をもって日々の活動に取り組んできた成果かと思います。一方で、「あまり楽しさが見つけられなかった」子が増えていることが気になります。よりそれぞれのニーズにあった視野を広くした学習内容を検討していきたいです。

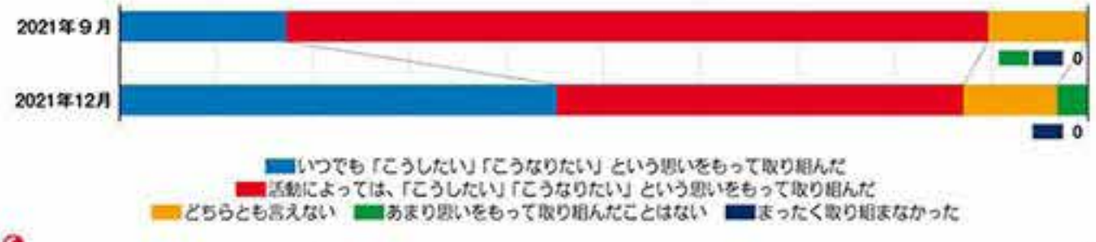
友だちや先生と、新しい見方や考え方を見つけることは楽しいと感じましたか。



アンケート結果について ②

学習のゴールを明確にした上で学習を進め、子どもたちが学習のゴールにたどり着くために必要なことを考え、また、それを活動につなげられたことが、このアンケートの結果につながったのだと思います。総合的な学習の時間では、「生き物にとって住みやすい海にする」「ゴミをなくす」という二つのテーマを崩さず、二つのゴールに向けての学習計画を学習のたびに変更してきました。これは、ゴールへのよりよいプロセスを子どもたち自らが思考し構築することで、必要感のある学習につながったのではないかと考えられます。

自分が「こうしたい」「こうなりたい」という思いをもって取り組みましたか。



今後、児童に期待すること

高島水際線公園を訪れるたびに公園の環境が日々変化していることに気づいた子が多くいました。その理由として、季節ごとの生態系や時間がたつことでゴミが再び増えているのではと考えました。今回の活動が一時の活動にはならず、今後も継続していく活動であることや、自分のまちの自然を守りつつ、よりよい環境づくりについて日々考えていかなくてはいけないことと考え、みなとみらいのまちづくりに貢献していくことを期待しています。

吉野さんの講演

生き物観察

ためめの生き物観察

ハマの海を想う会の吉野さんに来ていただき、横浜の海の現状を教えてもらいました。吉野さんから聞いたことを受け、高島水際線公園の生き物観察を行いました。カニや魚など、身近にたくさんの生き物が住んでいることに気づきました。

高島水際線公園の現状

ゴミ拾い

ゴミ拾いでとれた魚

生き物の生態調査とともに、ゴミの調査も行いました。川岸には大量のゴミが流れついており、拾うと数分でゴミ袋がいっぱいになりました。しかし、その近くには生き物がいることが確認でき、当初ゴミが少なければ生き物が多いと考えていたことから、生き物にとって住みやすい環境とは何なのかを考えるようになりました。

かもめスクールでの発表

こどもエコフォーラムでの発表

「みな」と「みらい」を語る会

かもめスクール、子どもエコフォーラム、「みな」と「みらい」を語る会、とこれまでの活動を地域や保護者の方に伝える機会がありました。自分たちの活動を伝えるなかで価値づけてもらったこと、アドバイスをもらったことを今後の活動に生かそうとしました。活動していくなかで、これまで自分たちでは気づかなかったことを指摘してもらうことで、より視野を広げた考えをもつことができ、まずは教室や学校の水槽でよりよい海の環境を再現した上で、みなとみらいの海へ返そうという気持ちを高めました。

【協働・連携先】日本釣振興会／ハマの海を想う会　吉野生也様

5年2組

活動の経緯とねらい　高学年になり、学校全体のことを考えた態度や行動が期待される立場になりました。そこで、今年度は、学校での生活を振り返って、課題だと感じることを出しあい、そのなかから活動テーマを決めることにしました。

話しあいを進めていくと、普段の生活のなかでの思いやりに欠けた言動で、お互いに傷ついてしまったり、男女や国籍などについての偏見や差別があったりすることが課題としてあがりました。

そこで、5年2組では、こうした様々な課題について考え行動していくことを通して「人権」についての理解を深めていくことにしました。

アンケート結果について①　全体的に、より肯定的な回答数の増加が見られました。肯定的な回答をした児童においては、学級や学年で取り組んだ活動のなかで、様々な立場の人と出会い、「自分にはなかった考えを知れてよかった」と考えていることが、振り返りの記述などからうかがえました。

一方で、否定的な回答をした児童においては、活動中にグループのメンバーを意見が合わず、計画がなかなか進まなかったなどが理由としてみられました。今回は、テーマごとにグループをつくって活動を進めてきましたが、子どもたちがやりたいと思っていることを十分にサポートできていなかった点が反省点です。

自分とはちがう意見を取り入れて、活動を考えたり、考えをまとめたりしましたか。

アンケート結果について②　9月、12月ともに、肯定的な回答をした児童が多く見られました。しかし、その内実をみていくと「ひろい心」に対する捉えが個々の児童によって異なっていることがうかがえました。

具体的には、ひろい心を「困っている人を助ける」や「みんなが楽しめるようにする」など、思いやりに近い捉えをしている児童がいる一方で、「トラブルになるので言わない」「がまんする」「相手にしない」などといった捉えをしている児童もいることがわかりました。こうした捉え方のちがいについても共有するなかで、直接アウトカム020302で目指している価値について、今後も考えていく必要があります。

ひろい心で自分も相手も認められましたか。

今後、児童に期待すること　「人権」という言葉の意味や定義をインターネットで理解することは、あまり意味がありません。「人権」という言葉は、生きた言葉（概念）だからです。人権について考えていく過程で、出産を間近に控えた半澤先生、助産師の、認知症サポーターの皆さん、性教育YouTuberのシオリーヌさん、横浜市SDGsデザインセンターの皆さん、スローレーベルの皆さんなど、様々な立場の人と出会い、その人たちの思いや願いを感じてきたと思います。これからも人の多様なあり方に目を向け、みんなと共に「人権」という概念を更新し続けていってほしいと思っています。そして、みんなの人権を大切にする学校、家庭、地域の実現のために行動する人になってくれることを願っています。

命の授業

命の授業

認知症サポーター養成講座

ジェンダー、障害、パラスポーツ、国際理解、SDGsを広めるなど、テーマごとにグループをつくり、取り組みをはじめました。活動では、まず「知ること、聞くこと」を目的にしました。コロナ禍で計画中止になったものもありましたが、インターネットに頼りすぎず、可能な限り、様々な立場の人との出会いから、学べるようにしました。

「みな」と「みらい」を語る会

「みな」と「みらい」を語る会

「みな」と「みらい」を語る会

「みな」と「みらい」を語る会では、体験型にしたり、プレゼンテーションで説明をしたりなど、自分たちで発信方法を考えました。事後のアンケートでは、子どもたちの頑張りを称賛する回答をいただくことができました。

また、自分たちが考えていなかった視点についてもご意見をいただいたグループもあり、さらに考えを深めていこうとするグループも見られました。

かもめスクールでの発表

クイーンズスクエアクリスマス点灯式

ソーシャルサーカス

人権に関する諸問題について考えていくだけではなく、自分たちがどういった未来の社会を築いていくべきなのかについても考えていくように取り組みを展開させました。「誰もが暮らしやすいクラス、学校、社会」の実現に向けて、今後も価値を更新し続けていってほしいです。

【協働・連携先】横浜市西福祉保健センター／戸部本町地域ケアプラザ／助産師の中様／NPO法人スローレーベル／クイーンズスクエア横浜イベント実行委員会事務局／シオリーヌ様／横浜市政策局男女共同参画推進課

6年

活動の経緯とねらい　4年生で「ウッド・ストロー」「ポッチャ」、5年生で「ポンタすごろく」などに取り組み、SDGsに関する意識が高まっていました。今年度に取り組む活動を話しあったときに、このまちは「自然が豊か」「誰もが過ごしやすいまち」である反面、「ごみが多い」「二酸化炭素排出量が多い」と意見が出ました。しかし自分たちの考えている「課題」は、すでにまちの企業や店舗の取り組みによって解決に向かっていて、それを自分たちが知らないだけなのではないかという疑問をもちました。

このまちの課題と考える点について、まちの企業や店舗の取り組みを調査し、発信していくことでSDGsをより広められる懸け橋になるのではないかと活動をはじめました。

アンケート結果について①　「どの学習でも見つけられた」という割合が大幅に増えました。今回の取り組みでは、自分たちで取材したい企業を選び、また事前に企業が取り組んでいることを調べたうえで取材を行いました。一つの企業だけでなく、いくつもの企業に取材を行うことで、「次はこうしよう」「こんなことを聞いてみたい」などと思う子どもたちの姿が見られました。「やってみよう」「やりたい」という思いをもち学習に取り組めるようになったことは大きな成果と考えます。

学校の学習で「やってみよう」「やりたい」が見つけられましたか。

アンケート結果について②　ホテル、カフェ、商業施設、鉄道、エネルギーなど、様々なジャンルの企業を取材できたことは、子どもたちにとって、とても有意義な活動であったと考えます。それぞれの企業ごとにSDGsについての考え方も、サービスの仕方についてもちがい、そのことを直で取材できたことが、子どもたちの新しい見方や考え方を見つける楽しさを育めたのではないかと考えます。

友だちや先生と、新しい見方や考え方を見つけることは楽しいと感じましたか。

今後、児童に期待すること　たくさんの企業の協力を経て、様々なSDGsへのアプローチの仕方を学びました。「みな」と「みらい」を語る会では、その調査したことを保護者や他学年に発信し、自分たちが普段利用している身近なところでたくさんの取り組みが行われていることを伝えました。

また、SDGsの取り組みの根底には、「まちを笑顔にしたい」「まちと人をつなぎたい」「世界じゅうの人々が平等であるべき」「気持ちよく働いてもらいたい」など各企業ごとにもっている理念やポリシーを聞くことができました。これから、中学生という社会への第一歩を踏み出す6年生にとって、そのような働く人たちの考え方もたくさん吸収し、卒業へ向かってほしいと思います。

学校付近にある12の企業へ取材させていただきました
カハラホテルさんへの取材では社員の取り組みまで教えてもらいました
急急の飯尚さんにつながりについてめぐりました

学校に出前授業へ来ていただいたり、実際に現地で取材させてもらう活動を行いました。取材先では、実際に使用している紙ストローを見せてもらったり、ごみの処理をどのようにしているのかを見学させてもらいました。

マークイズさんでは海洋プラスチックを利用したワークショップに参加しました
ランドマークプラザさんへの取材では防災についても学びました
みなとみらい熱供給の内田社長へ直々に取材しました

「みな」と「みらい」を語る会では、多くの方から、「こんな活動をしていることを知らなかった」「自分も考えてみないといけないと思った」などの感想をいただけました。

東急スクエアさんのイベントは興味深いものでした
ハードロックカフェさんはジェンダー平等を大切にしていました
「みな」と「みらい」を語る会で多くの保護者と対話しました

学習のまとめは自分たちの見方や考え方を見直し、変容する姿を実感することです。一人ひとりが6年間で考えたこと、そして成長を発信していきます。

【協働・連携先】みなとみらい21熱供給／スターバックスジャパン／ハードロックカフェ横浜／ザ・カハラホテル／三菱地所プロパティマネジメント（マークイズみなとみらい、ランドマークプラザ）／京浜急行電鉄／横浜高速鉄道／東急モールズディベロップメント（みなとみらい東急スクエア）／AZUL BY MOUSSYみなとみらい

学習室

活動の経緯とねらい　学級の花壇では、毎年様々な野菜など植物を栽培しています。育てた野菜を観察したり、収穫をしたりすることを楽しみにしている児童が多く、そのなかで、さらに栽培を通して、いろいろな学校内外の人とのかかわりをもたせていきながら、自分で食べること以外の目的を付加していきたいと考えました。

また、子どもたちが自分たちの活動に意義を感じ、自信をもって発信しようとする気持ちを育みたいと考えています。

アンケート結果について①

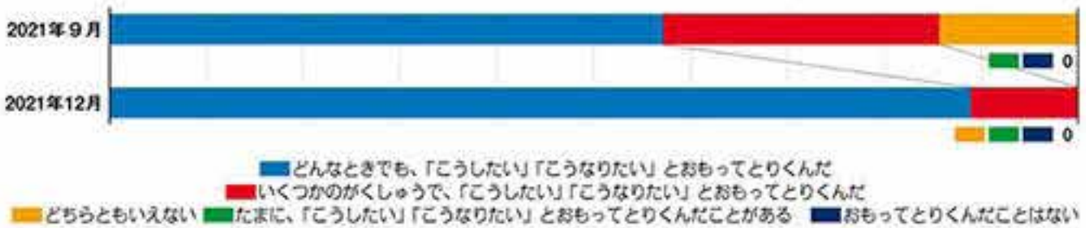
前半は、栽培活動も含め様々な体験をすることができました。しかし、夏季休業明けの分散登校などもあり、十分な活動が制約されることもありました。後期は野菜の収穫、調理のほか、綿の収穫、作品づくり、発表など、目標と成果がはっきり感じ取れる活動があり、取り組みに対する意欲が高められたと考えます。

がっこうで「やってみよう」「やりたい」がみつけられましたか。

アンケート結果について②

交流級に綿の栽培の様子や、綿を使った羊の作り方を発表しに行きました。そのときに感想を聞き、次の発表への意欲を高めている児童がいました。また、学級内でも改善点を話しあうと、「大きな声で話したい」「恥ずかしがらないで、堂々と話す」「姿勢に気をつけて、かっこよく」「相手にわかりやすく、やさしく話したい」など、自分の発表を振り返り、どうしたいか、どうなりたいか具体的な目標をもつことができていました。

「こうしたい」「こうなりたい」とおもって、とりくみましたか。



今後、児童に期待すること　子どもたちは、綿の栽培収穫、綿を使った羊の置物づくりに興味をもって取り組みました。そして保護者、他学級の児童、同じ綿の栽培に取り組んだ福島県いわき市の小学校との交流へと発表活動の範囲を広げていくことができました。発表後には、「知らなかったよ」「すてきだね」など、友だちから感想を言われ、うれしそうにしていました。発表への自信を高め、活動を発信することの喜びを感じることができました。今後、さらに、みなとみらい地域とのつながりをもちながら、地域で暮らす一人としての意識を高めていきたいです。

学習室の畑に、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」から送ってもらった綿の種を植え、大切に育てました。芽や花、実など成長の様子をiPadで写真に撮るなどして、観察を続けました。

いろいろな綿の作品を見て、自分たちのオリジナル作品を作ることになりました。綿の色や手触りから、羊を作ることにしました。

綿の育て方と羊の作り方をみんなに伝えたいとの思いから、まずは保護者に発表しました。続いて、交流級にも伝えに行きました。「みんなに聞こえる声で発表しなきゃ」「やさしい話し方をするといいね」「もう少しゆっくり話そう」と、回を重ねるごとに課題が見つかり、改善策をみんなで考えました。作った羊は、職員室はじめ、特別教室にもプレゼントし、飾ってもらいました。

【協働・連携先】ふくしまオーガニックコットンプロジェクト／NPO法人ザ・ピープル

学校行事

白石さん応援プロジェクト

令和３年に行われたヨットレース「ヴァンデグローブ」で完走を果たした白石幸次郎さん。2020年度から白石さんを応援しています。昨年度、来校してくださった際に、臨港パークに「ヴァンデグローブ」で実際に乗られたヨットで会いに来るという約束をしてくださりました。国際委員を中心に、応援プロジェクトを立ち上げ、全校でお迎えする準備をしました。

実際に見るヨットの迫力と白石さんに、また元気と勇気をもらうことができました。保護者の方も参観してくださり、気持ちが一つになる瞬間でした。

白石さん応援プロジェクト

おかえりなさい白石さん

ようこそみなとみらいへ

クイーンズスクエア横浜SDGsフォトスポット

みんな（みなとみらいのまちの人、まちを訪れる人）が笑顔になれる「クイーンズスクエア横浜SDGsフォトスポット」を作ることを目指して、５年生が中心となりながら制作を進めました。制作にあたっては、１年生が17色のリングの色塗りを担当し、２～６年生がSDGsの項目からイメージしたオリジナルのアイコンを考えました。このフォトスポットで撮影した写真を年賀状に載せてくださったご家庭もありました。子どもたちがこのフォトスポットに込めた思いがみんなに伝わり、みんなの笑顔があふれるまちになるといいですね。

SDGsフォトスポット

令和３年度運動会

低学年&応援団の応援

5・6年ソーラン節

低学年ゴール

開催形式が大きく変わり、コロナ禍で２回目の運動会になりました。運動会実行委員の児童は、昨年度作り上げた新しい形の運動会のよさを踏襲しつつ、今年の運動会づくりをしたいと考えました。話しあいでは、３密を意識したプログラム内容や進行の仕方を検討しました。人とのつながりが保ちにくい環境のなかにあっても、異学年との交流を大切にしたいと考え、今年もたてわり全校競技では、ルールを工夫した上で全員参加型の玉投げ競技を実施することができました。

「みな」と「みらい」を語る会

コロナ禍での「みな」と「みらい」を語る会でしたが、低・中・高学年同士で交流したり、感染防止対策をを行いながら保護者参観を実施することができました。おかげで、子どもたちの意欲が高まり、生き生きと活動する姿が見られました。

「みな」と「みらい」を語る会低学年

「みな」と「みらい」を語る会3年生

「みな」と「みらい」を語る会6年生

Tender Loving Sustainable Christmas点灯式

Christmas点灯式の様子

今年度もクイーンズスクエア横浜にて行われたクリスマスツリー点灯式に参加しました。５年生の代表児童が学校でのESDの取組みや、みなとみらいのまちや人に対する思いや願いをSDGsの視点から発表しました。当日に点灯式へ参加した方や、後日配信動画を視聴した方々から、子どもたちへ向けてたくさんのご感想をいただき、学校と地域とのつながりを感じられる機会となりました。

当日の様子は、上のQRコードを読み取って、ご覧になれます。（YouTube配信）

学校運営協議会／みらい共創ネットワーク！

みんなで支えるESD ――コミュニティ・スクール&みらい共創ネットワーク！――

みなとみらい本町小学校には、ESD を支える２つの機能があります。

1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）

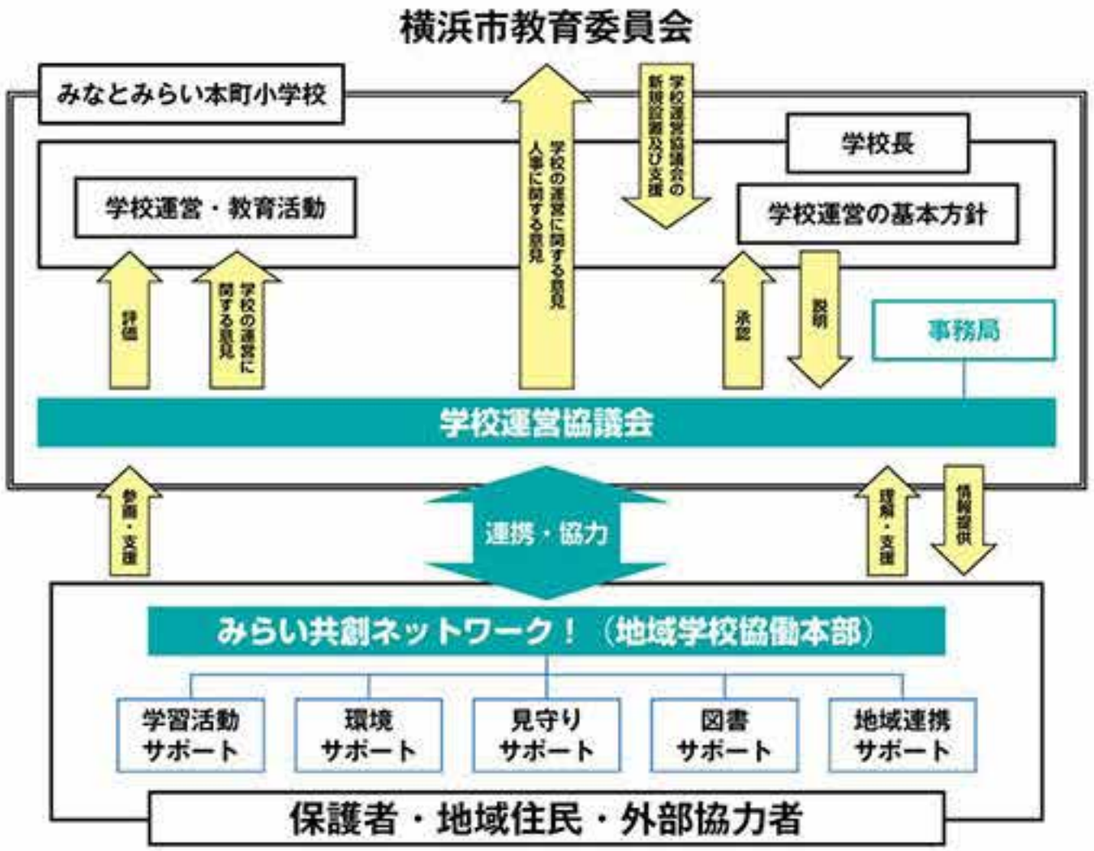
教育委員会から学校運営協議会の設置が認められた学校を「コミュニティ・スクール」といいます。本校でも2019年10月に学校運営協議会の設置が認められ、コミュニティ・スクールとなりました。

学校運営協議会は、教育委員会から任命された委員による、学校運営の基本方針の承認や学校運営に対する意見を通して、関係者の皆さんの意見を反映した協働的な学校づくりを目指します。

本校の重点取り組みであるESDの推進についても、学校運営協議会で承認され、関係者が一体となって推進することが確認されました。

2 みらい共創ネットワーク！（地域学校協働本部）

幅広い地域住民や民間企業、NPOなどが参画し、地域と学校が連携・協働しながら、地域社会全体で子どもたちの成長を支え、地域社会を創生することを目指す「地域学校協働本部」として、2018年９月に「みらい共創ネットワーク！」がスタートしました。ESDを推進するための多様で豊かな子どもたちの活動を支えています。



学校運営協議会委員の皆さまより

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2021年５月、９月、2022年２月の学校運営協議会は、オンラインにて実施いたしました。学校の教育活動の様子や評価に関することを中心に、協議をいたしました。2021年11月の学校運営協議会は、久しぶりに集合することができましたので、改訂されたロジックモデルに関するワークショップを行いました。学校運営協議会の委員の皆さまから、たくさんのご意見をいただき、次年度のロジックモデルに反映させていこうと思います。

授業での連携のなかで、子どもたちが主体となって、身近な社会課題の解決に取り組んでいることを知りました。学校運営協議会では、その結果をアウトプットして終わるのではなく、その活動が子どもたちや学校、および地域にもたらした成果（アウトカム）を、ロジックモデルを用いて評価し、今後の学校運営に生かす先進的な取り組みに触れました。

これらを通して、私自身も、地域住民として学校に何ができるかという当初の発想から、地域と学校の相互的な学びあいを意識するようになりました。子どもたちを地域の一員として受け入れ、大人も一緒になって課題解決に取り組む、多様性を生かした地域社会が、学校を起点として、みなとみらいで実現することを期待しています。

高島中央公園愛護会　会長
学校運営協議会　会長
松本道雄

耳慣れない「SDGs」、さらに耳慣れない「ESD」。４年前の開校からみなとみらい本町小学校の学びに参加させていただくようになりましたが、当時の私は何もわかっていませんでした。今も説明を求められたら、できる自信がないです。

ですがこの４年間、子どもたちの校外学習のサポートをさせていただくことで活動内容を知り、子どもたちが自ら主体的に案を出し、学び、調べ、理解し、自分の言葉で語り、問題を解決していく姿を間近で拝見してきました。

目先のゴールではなく、これからの未来を創ろうとする輝く姿に頼もしさを覚えるとともに、そうした活動ができる環境があることと、みらい共創ネットワーク！として協働できることを楽しみにしています。

みらい共創ネットワーク！　代表
榎本文絵

みなとみらい21地区の開発当初からまちづくりとともに歩んできた企業の代表として、学校創立から本校の教育活動を応援しています。かつて横浜市の教育行政も経験したことから、数多くの学校の取り組みを見てきましたが、みなとみらい本町小学校は、「オンリーワン」の存在だと感じています。

先日もNHKで、本校の児童が企業を訪問し、SDGsの取り組みを取材する姿が紹介されましたが、とくにESDは、全国でも特筆すべき先進的な水準にあると言えます。

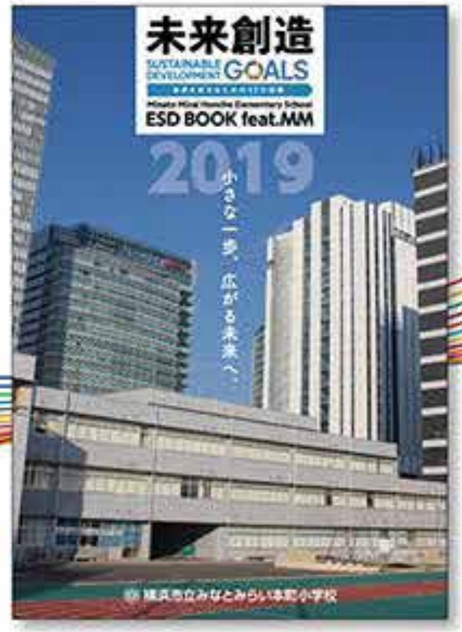
近年では研究部門の進出も目立つ数多くの企業、国際機関、博物館、大学などが立地するみなとみらいの恵まれた条件を生かして、これからも外部との積極的な連携を図っていただきたいと思います。

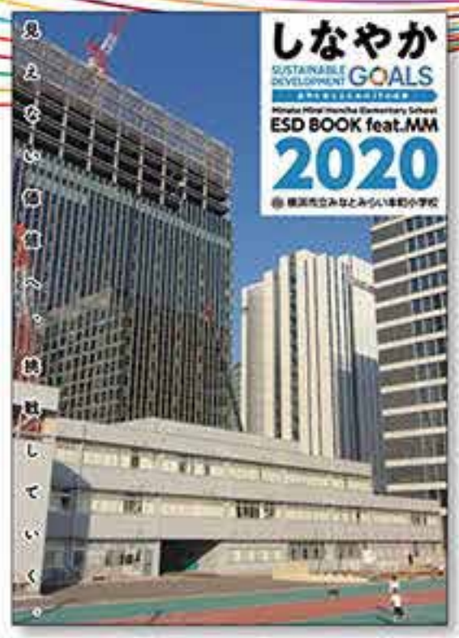
みなとみらい21熱供給株式会社　代表取締役社長
内田茂

みなとみらい本町小学校ESDの歩み

未来創造 Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2019

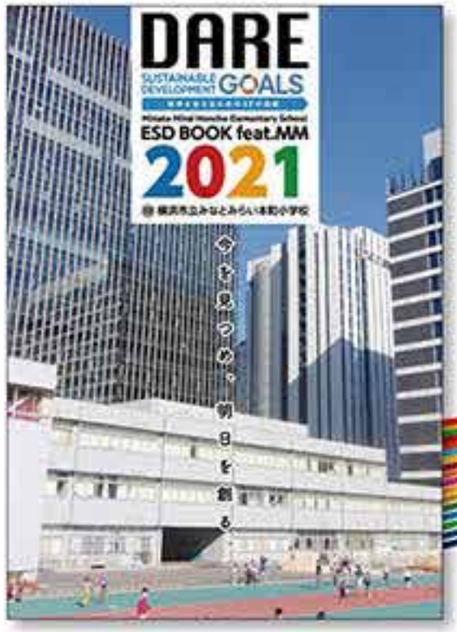
「ESDってなんだ？」明確な指標がないため、「何をすればよいのかわからない。」という声がありました。ESDの取り組みはどのようなことをすればよいのか。子どもたちが、持続可能な「未来を創造」するために、小学校教育で取り組むことや育てたい資質・能力をUNPACKしました。





しなやか Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2020

新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の影響を受けて、これまでの学校教育を行うことが難しくなりました。そのような困難な状況にも、「しなやか」に対応できることは、ESDの概念につながります。ロジックモデルを用いた協働型プログラム評価に取り組み、学校のすべての教育活動でESDに取り組みました。



DARE Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2021

持続可能な社会づくりには、現在の社会を形成する大人との協働が大切です。ESD／SDGsプログラムを推進し、子どもたちが社会へ参画するために、様々な企業や団体と連携・協働してきました。協働型プログラム評価の結果から、各クラスの取り組みは、子どもたちの社会参画意識の向上につながっています。

また、子どもや社会の実態に合わせ、「あえて（DARE）」前年度までのESD／SDGsプログラムを見直し、アップデートしました。

※これまでのESDの歩みは、みなとみらい本町小学校ホームページにもあります。

編集後記

本校の学校教育目標は「みな（皆）と　みらい（未来）を創る子」です。「みな」とは、子どもたちや教職員だけでなく学校に関わる多様なステークホルダーが含まれています。開校以来、子どもたちは地域の方々や地域企業、様々な外部機関とともに、自分たちにとっての身近な社会課題の解決に向けて取り組んでまいりました。

さらに、コロナ禍のこの２年間はオンライン会議システムの普及や、児童への一人１台タブレット貸与により、時間や距離を越え、様々な人、もの、こと、社会、自然、……と、つながり、活動してきました。

『地球上ではすべての人とつながっていることに気づきはじめた子どもたち』

この４年間、「今」の自分たちにできることを考え、実践を積み重ねてきた子どもたちが高学年となりました。そして、SDGsの価値を社会に広めていこうと取り組んだり、社会の大人たちが取り組むSDGsに自らつながりを求めたりする姿がみられるようになりました。子どもたちにとっての「みな」は単なる「学校にかかわる多様なステークホルダー」だけではなく、まだ見ぬ「あなた」も、これから共に未来を創っていく「みな」となりました。今、本書を手に取っている「あなた」は、すでに子どもたちにとっての「みな」なのです。ぜひ、左ページのバックナンバーより、これまでの研究のあゆみもご覧いただき、子どもたちの４年間の変容も見ていただければ幸いです。

結びになりますが、本校のESD推進およびロジックモデルを活用した教育活動の研究にあたり、東京都市大学　佐藤真久先生、東洋大学／インド工科大学　※原あき先生をはじめとして、皆さまよりご助言、ご指導いただきましたことに深く感謝申し上げます。今後とも、本校が掲げる「みな（皆）とみらい（未来）を創る子」の学校教育目標実現に向け、そして、「持続可能な社会」の担い手を育む小学校としてのさらなる発展のために、ご協力をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

横浜市立みなとみらい本町小学校　副校長
安部勝志

DARE Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2021

みなとみらい本町小学校2021年度 職員

校長 小正 和彦
副校長 安部 勝志
1年1組 望月 勇太
1年2組 堀江 加奈子
1年3組 広瀬 ひろみ
2年1組 橋上 ありす
2年2組 一色 恵
3年1組 赤岡 鉄矢
3年2組 植村 あゆみ
4年1組 田屋 宏人
4年2組 杢田 陽花
5年1組 田中 雄大
5年2組 松尾 健一
6年1組 中籔 直人
6年2組／教務主任 高原 洋介
学習室 金本 隆
学習室 牛島 享子
国際教室 新田 純一
児童支援専任 赤津 淳子
養護教諭 半澤 祐美子
養護教諭 棚橋 七海
専科 新井 貴惠
専科 小松 亜紀

専科 眞木 由紀恵
専科 田島 尚子
専科 井上 由紀子
栄養職員 渡辺 美由紀
事務職員 藤山 貴生
学校司書 木輪 和代
技術員 葉山 笑美子
技術員 小川 芳夫
調理員 矢野 美津子
調理員 鈴木 寿美
アシスタント 山崎 絹子
アシスタント 石川 直子
AET ジェニファー・スミス
IUI ヴァンデンストーム・ヴィンセント・レネ
日本語教室指導 金澤 日佐子
保健室サポート 土屋 かよみ
初任研指導教諭 小野沢 泰子
理科支援員 小林 真由美
ICT援員 藤井 理恵
カウンセラー 田中 裕人
カウンセラー 胡 実
SSW 大塚 るみ

AET＝アシスタント・イングリッシュ・ティーチャー
IUI＝インターナショナル・アンダースタンディング・インストラクター
ICT＝インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー
SSW＝スクール・ソーシャル・ワーカー

2021年度 学校運営協議会委員

高島自治会 会長 齋藤 攻
MMタワーズ自治会 会長 五十嵐 康子
高島中央公園愛護会 会長／学校運営協議会 会長 松本 道雄
一般社団法人横浜みなとみらい21 理事長 坂和 伸賢
PTA会長／学校運営協議会 副会長 山元 友紀子
教育奨励会 会長 藤野 雄太
地域学校協働本部 代表／学校運営協議会 副会長 榎本 文絵
放課後キッズクラブ運営法人 株式会社理究キッズ 部長 仲山 雄一朗
東洋大学社会学部 教授／インド工科大学人文社会科学研究科 客員教授 米原 あき
みなとみらい21熱供給株式会社 代表取締役社長 内田 茂
ヨコハマSDGsデザインセンター センター長 信時 正人
横浜市立横浜吉田中学校 校長 米盛 司
横浜市立本町小学校 校長 田川 斉史

DARE Minato Mirai Honcho Elementary School ESD BOOK feat.MM 2021

2022（令和4）年2月28日発行
発行者：小正和彦
発行所：横浜市立みなとみらい本町小学校
〒220-0011 横浜市西区高島1-2-3
電話：045-451-1515

小学校ホームページ